

MSI

MICRO-STAR INTERNATIONAL

850 Pro2

MS-6523 ATX Mainboard



Version 1.0
G52-MA00377

Manual Rev: 1.0
Release Date: June 2001



FCC-B Radio Frequency Interference Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Notice 1

The changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Notice 2

Shielded interface cables and A.C. power cord, if any, must be used in order to comply with the emission limits.

**VOIR LA NOTICE D'INSTALLATION AVANT DE RACCORDER
AU RESEAU.**



改定履歴

第1版 2001年6月

著作権について

本マニュアルは MICRO-STAR INTERNATIONAL 社(以下 MSI)及びエム・エス・アイ コンピューター ジャパン(株)(以下 MSI-J)の知的所有権を有しています。本マニュアルに記載されている記述は製品及びソフトウェアに記載されているものを含めユーザーがバックアップ目的で利用することを除き MSI 及び MSI-J の許可無しに複製・複写・転載・修正することはできません。

MSI 及び MSI-J は製品の仕様変更などにより、予告無くマニュアルを改訂することがあります。

MSI 及び MSI-J は本マニュアルによる間接的、利益の損失、データの損失等に対し MSI 及び MSI-J は理由に関らず責任を負いません。

登録商標について

本マニュアルに記載されている製品名及び社名は、それぞれの会社の登録商標もしくは著作権です。製品・社名を識別するために使用するもので、権利を侵害するものではありません。

Intel、Pentium、Celeron は Intel Corporation. の登録商標です。

PS/2 及び OS/2 は IBM Corporation. の登録商標です。

Windows 95 及び Windows NT は Microsoft Corporation. の登録商標です。

Netware は Novell. 社の登録商標です。

Award は Award Software Inc. の登録商標です。



注意: マザーボードの作業をする際は、必ず電源コードを抜いてから行ってください。電源を抜かずに作業するとけがやマザーボードに損害を与える場合があります。この際 MSI は一切責任を負いません。

安全のために

1. 以下の注意事項を必ず読んでください。
2. このマニュアルは必ず保管してください。
3. 本製品を湿度の高い環境下に置かないで下さい。
4. セットアップに入る前に本製品を水平な平面に置いてください。
5. ケースに開いている穴は、本製品の過熱を防ぐための空気の通り道です。絶対にふさがないで下さい。
6. 電源の電圧を確認して、110/220V を設定してから本製品をコンセントに接続してください。
7. 電源コードは、人がつまずくような場所には置かないで下さい。また、電源コードの上にモノを置かないで下さい。
8. 拡張カードやモジュールを挿入する前には必ず電源コード抜いてください。
9. マニュアルに記載されている本製品に関する注意事項や警告は必ず確認してください。
10. 本製品にある穴に電氣的ショックを引き起こすような液体を注がないで下さい。
11. 以下の状況が確認された場合、サービス担当者に必ずチェックしてもらってください。
 - 電源コード、またはプラグが壊れている
 - 製品内に液体が入った
 - 製品が蒸気にさらされた
 - 製品が動作しない、またはマニュアル通りに設定できない
 - 製品を落とした、または壊した
 - 明らかに壊れたと認識できる状態

注意: 60° C 以上の環境下での使用は絶対にやめてください。製品の破損の可能性があります。

目次

第一章: 製品概要	1-1
製品仕様-----	1-2
マザーボードレイアウト-----	1-4
クイックコンポーネントガイド-----	1-5
製品特徴-----	1-6
MSI スペシャルフィーチャー-----	1-7
第二章: ハードウェアセットアップ	2-1
CPU-----	2-2
CPU インストール手順-----	2-2
CPU クロックの設定-----	2-3
メモリインストール-----	2-4
メモリを使用する際の注意事項-----	2-4
RIMM モジュールのインストール手順-----	2-5
電源-----	2-6
ATX 20 ピン電源コネクタ-----	2-6
ATX 12V 電源コネクタ: JWR1-----	2-7
ATX 5V/3V 電源コネクタ: JWR2-----	2-7
背面パネル-----	2-8

マウスコネクタ-----	2-8
キーボードコネクタ-----	2-9
USB コネクタ-----	2-9
パラレルポートコネクタ-----	2-10
シリアルポートコネクタ: COM A & COM B-----	2-11
ジョイスティック/Midi Connector-----	2-11
オーディオポートコネクタ-----	2-11
コネクタ-----	2-12
フロッピーディスクコネクタ: FDD1-----	2-12
ハードディスクコネクタ: IDE1 & IDE2-----	2-13
ケースコネクタ: JFP1-----	2-14
省電力 LED コネクタ: JGL1-----	2-16
リモート電源オン/オフスイッチコネクタ: JRMS1--	2-17
省電力スイッチコネクタ: JGS1-----	2-17
Wake On Ring コネクタ: JMDM1-----	2-18
Wake On LAN コネクタ: JWOL1-----	2-18
IrDA 赤外線モジュールコネクタ: J18-----	2-19
ケース内進入スイッチコネクタ: J12-----	2-19

ファン電源コネクタ: CPUFAN/SYSFAN/PSFAN-----	2-20
CD-In/外部音声入力/Modem-In コネクタ: J8/J10/J11-	2-21
USB PC To PC コネクタ: JUSB1 (オプション)-----	2-22
ジャンパ-----	2-25
クリア CMOS ジャンパ: JBAT1-----	2-25
RDRAM オーバー電圧ジャンパ: J20-----	2-26
オンボードオーディオコーデックジャンパ: J19-----	2-27
クリア BIOS パスワードジャンパ: J17-----	2-28
BIOS フラッシュジャンパ: J16-----	2-28
ビープデバイスジャンパ: J15-----	2-29
スロット-----	2-30
AGP (Accelerated Graphics Port)スロット-----	2-30
PCI スロット-----	2-30
CNR (Communication Network Riser)スロット-----	2-30
PCI 割り込み要求ルーティング-----	2-31
第三章: AWARD® BIOS 設定	3-1
BIOS 設定画面の起動-----	3-2
コントロールキー-----	3-2
ヘルプ-----	3-3

メインメニュー-----	3-4
Standard CMOS Features-----	3-6
Advanced BIOS Features-----	3-8
Advanced Chipset Features-----	3-12
Integrated Peripherals-----	3-14
Power Management Setup-----	3-19
PnP/PCI Configurations-----	3-23
PC Health Status-----	3-25
Frequency/Voltage Control-----	3-27
Load Fail-Safe/Optimized Defaults-----	3-29
Set Supervisor/User Password-----	3-31
-	
追記 A: USB PC to PC ネットワーク機能	A-1
GeneLink™ LAN ドライバストール手順-----	A-2
USB PC to PC ネットワーク機能-----	A-4
用語集	I

製品概要

1

MS-6523 ATX マザーボードは Intel(R) 82850 チップセットをベースにした高性能マザーボードです。MS-6523は Intel(R) Pentium 4プロセッサをサポートし、ハイエンドビジネス/デスクトップ市場のための製品です。

Intel(R) Tehama チップセットは 64B キャッシュラインサイズと 32ビットホストアドレッシングによってプロセッサが 4GB のチップセットメモリアドレススペースすべてにアクセスすることを可能にします。さらに、4x AGP データ転送および AGP 高速書き込みの機能も提供します。

Intel(R) Tehama チップセットの特徴として RSL 技術によって lock-step で動作するデュアルチャンネルダイレクト RDRAM メモリがあげられます。このチップセットは非常に柔軟で基本的なグラフィック/マルチメディア PC プラットフォームからメインストリーム高性能デスクトッププラットフォームにまで拡張するために設計されたチップセットです。

Intel(R) 82801BA (ICH2) チップセットは高い統合性と複数の機能を持つ I/O コントローラハブで、PCI バスへのインターフェイスを提供し今日の PC プラットフォームに必要な機能を統合しています。専用のハブインターフェイスを通してホストコントローラとコミュニケーションをとり、コストパフォーマンスの高いシステムソリューションをデザインする上で必要なさらなる柔軟性を提供します。

この章では以下のトピックについて説明します：

製品仕様	1-2
マザーボードレイアウト	1-4
クイックコンポーネントガイド	1-5
製品特徴	1-6
MSI スペシャルフィーチャ	1-7

製品仕様

CPU

Intel(R) Willamette プロセッササポート
1.3GHz, 1.4GHz, 1.5GHz, 1.7GHz, 2.0GHz またはそれ以上を
サポート

チップセット

Intel(R) Tehama チップセット
- 最大 2GB メモリ (Rambus)
- AGP インターフェイス、4x SBA/ データ転送
Intel(R) ICH2 チップセット
- AC '97 コントローラ統合
- 2 フル IDE チャンネル、ATA100 サポート
- SIO用ローピンカウントインターフェイス

メモリ

4 184 ピン gold-lead RIMM ソケット
最大メモリサイズ、2GB

スロット

1 AGP (Accelerated Graphics Port)スロット
- 4x モードサポート
1 CNR (Communication Network Riser)スロット
4 32-bit/33MHz マスタ PCI バススロット
3.3v/5v PCI バスインターフェイスサポート

オンボード IDE

Intel(R) ICH2 チップセット上の IDE コントローラは IDE HDD/
CD-ROM に PIO、バスマスタ、Ultra DMA 33/66/100 動作モード
を提供します。
最大 4 つの IDE 機器を接続可能

統合スーパー I/O コントローラ

Winbond W83627HF-AW I/O コントローラ
- 1 フロッピーポートが 360K、720K、1.2M、1.44M、2.88M バ
イトの FDD を 2 台までサポート
- 2 シリアルポート (COM A + COM B)

- 1 パラレルポート、SPP/EPP/ECP モードサポート
- 4 USB ポート (背面 x2/ 前面 x2)
- 1 IrDA コネクタ、SIR

オーディオ

ICH2 チップに統合
AC797 コーデック

BIOS

本製品の BIOS は本製品に接続された周辺機器や装着された拡張
カードを自動的に認識する Plug & Play BIOS を提供
IDE ドライブ自動設定、アドバンスドパワーマネジメント (APM)
1.2、ACPI 1.0、DMI 2.0、ECC/ パリティサポート、LS-120 サポート

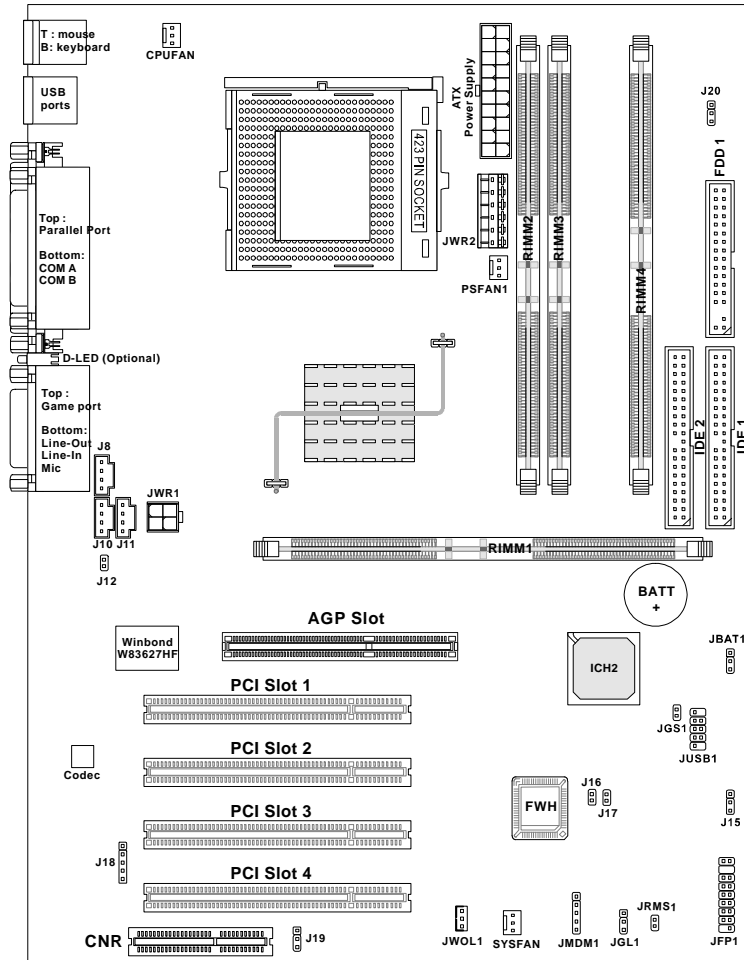
寸法

ATX フォームファクタ: 30.5 cm (縦) x 24.4 cm (横) x 4 層
基盤

ねじ穴

10 ねじ穴

マザーボードレイアウト



MS-6523 ATX マザーボード

クイックコンポーネントガイド

コンポーネント	機能	参照
RIMM1~4	RIMM モジュール	p. 2-4~2-5
Socket 423	CPU インストール	p. 2-2~2-3
CPUFAN	CPU ファンに接続	p. 2-20
SYSFAN	システムファンに接続	p. 2-20
PSFAN1	電源ファンに接続	p. 2-20
ATX Power Supply	電源インストール	p. 2-6
JWR1	12V ATX 電源に接続	p. 2-7
JWR2	5V/3V ATX 電源に接続	p. 2-7
IDE1& IDE2	IDE ハードディスクドライブに接続	p. 2-13
FDD1	フロッピーディスクドライブに接続	p. 2-12
JUSB1	USB インターフェイスに接続	p. 2-22~2-24
PCI Slot 1~4	拡張カードインストール	p. 2-30
AGP Slot	AGP カードインストール	p. 2-30
CNR Slot	CNR カードインストール	p. 2-30
JMDM1	モデムモジュールに接続	p. 2-18
JWOL1	LAN モジュールに接続	p. 2-18
JBAT1	CMOS データクリア	p. 2-25
JFP1	ケースに接続	p. 2-14
JGS1	省電力スイッチに接続	p. 2-17
JGL1	省電力 LED に接続	p. 2-16
J18	赤外線モジュールに接続	p. 2-19
J12	ケース内進入検出スイッチに接続	p. 2-19
JRMS1	電源スイッチに接続	p. 2-17
J15	ピープ音出力機器設定	p. 2-29
J16	BIOS フラッシュ機能有効	p. 2-28
J17	BIOS パスワードクリア	p. 2-28
J19	オンボードオーディオコーデック有効	p. 2-27
J20	RDRAM 電圧設定	p. 2-26

製品特徴

ATXフォームファクタ

CPU: Socket 423 Intel(R) Willamette プロセッサ

メモリ: 4 RIMM DIMM

スロット: 1 AGP スロット、1 CNR スロット、4 PCI スロット
I/O: 2 シリアルポート、1 パラレルポート、4 USB 1.1 ポート、
1 フロッピーポート、1 IrDA コネクタ、1 オーディオ/ゲーム
ポート

USB インターフェイス: USB 1.1 PC to PC ネットワーク機能
(オプション)

LAN ウェイクアップ機能

モデム(外付け/内蔵)リングウェイクアップ機能

D-LED™ -- 4つの診断LEDを基板上に設置(オプション)

PC Alert™ III システムハードウェアモニタ(オプション)

オーディオ: チップに統合

MSI スペシャルフィーチャー

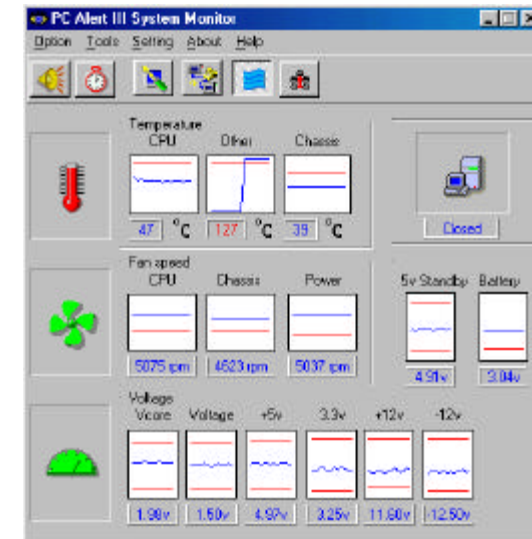
MSI スペシャルフィーチャーはMSIのR&Dによって開発されたMSI製品でのみ使用できる機能です。MS-6523 マザーボードにはオプションでPC Alert™ III、D-LED™ が付属します。

PC Alert™ III (オプション)

PC Alert™ III は同梱されているCD-ROMの中に入っています。このユーティリティは次のPCハードウェアの状態をリアルタイムで監視するいわばPCドクターのような役割を果たします。

- * CPU およびシステムの温度
- * ファン回転数
- * システム電圧
- * ケースの開閉

以上の項目のうち一つでも異常が発見されればこのプログラムの画面にその項目が赤くハイライト表示されます。ユーザがこれを無効にするまでこの警告は表示され続けます。



注意: 上図の各項目の値はシステム状況によって変わります。



特徴

ネットワーク管理

- モニタおよびリモートコントロール

基本システムユーティリティ

- HDD維持のためのスキャンディスクおよびデフラグ

3Dグラフィックデザイン

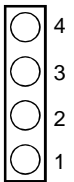
- よりユーザフレンドリなインターフェイス

ソフトウェアユーティリティ

- SoftCoolerによるCPU冷却の最適化

D-LED™ (オプション)

D-LED™ 4つのLEDを点灯させることでシステムの状態を報告するツールです。LED一つ一つには赤と緑の2つの色があるので、4つのLED組み合わせによって16(24)種類のシグナルを送ることが出来ます。それぞれのシグナルを個々の状態に割り当てることによって、ユーザーはシステムの状態を、マニュアルに載っているその状態の説明を見れば、簡単に見分けることが出来るわけです。さらに、マニュアルには、推奨される解決方法が載っていますので、今後ユーザーがシステムを組み立て、そのバグを解決するのに非常に役立つはずで



Diagnostic LED

● 赤 ○ 緑

D-LED	説明
1 2 3 4 	システム電源 ON - プロセッサに欠陥があるか正しくインストールされていない場合、D-LED はここでハングします
	チップセット初期化
	メモリ認識テスト - オンボードメモリサイズのテスト。メモリモジュールに欠陥があるか正しくインストールされていない場合、ここでハングします
	BIOS イメージを RAM に解凍
	キーボードコントローラ初期化
	VGA BIOS のテスト - スクリーンに VGA サインオンメッセージが出力されます

第一章

	<p>プロセッサ初期化</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロセッサ情報が出力されます(メーカー名、システムバスなど)
	<p>RTC (Real Time Clock)のテスト</p>
	<p>ビデオインターフェイス初期化</p> <ul style="list-style-type: none"> - CPU クロック、オンボードビデオの種類をチェックし、その後ビデオアダプタを認識、初期化します
	<p>BIOS のサインを表示</p> <ul style="list-style-type: none"> - ログ、プロセッサなどの情報を表示します
	<p>基本、拡張メモリのテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> - いろいろなパターンを使い、240K から 640K の基本メモリ領域と、1MB 以上の拡張メモリ領域をテストします
	<p>ISA すべてにリソースを割り当て.</p>
	<p>ハードドライブコントローラ初期化</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDE ドライブとコントローラが初期化されます
	<p>フロッピードライブコントローラ初期化</p> <ul style="list-style-type: none"> - フロッピードライブとコントローラが初期化されます
	<p>起動</p> <ul style="list-style-type: none"> - ロウスタックを設定して INT 19h 経由でシステムが起動します
	<p>OS 起動</p>

ハードウェアセットアップ 2

この章ではハードウェアのセットアップ手順についての説明をします。インストール中は部品の取り扱いには細心に注意を払って手順に従ってください。部品によっては誤った方向でインストールすると正常に動作しない場合や部品自体の破損につながる場合があります。

コンピュータ部品を扱う際は、必ず帯電防止バンドをつけてください。静電気によって部品が破損する場合があります。

この章では以下のトピックについて説明します。

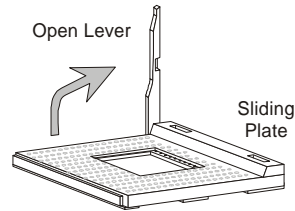
CPU	2-2
メモリインストール	2-4
電源	2-6
背面パネル	2-8
コネクタ	2-12
ジャンパ	2-25
スロット	2-30

CPU

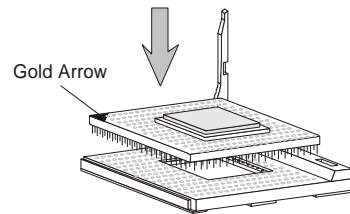
本製品は Intel(R) Pentium(R) 4 プロセッサで動作します。本製品は Socket 423 というソケットを使用しているため CPU のインストールが大変簡単です。CPU の過剰な発熱を防ぐためには必ずヒートシンクと冷却ファンが必要です。もしヒートシンクと冷却ファンが見つからない場合は、販売店に連絡するか、別途購入してからコンピュータの電源をオンにしてください。

CPU インストール手順

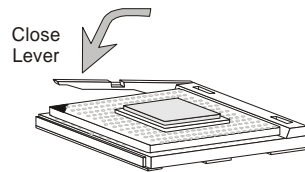
1. レバーをソケットから横方向に引っ張ってください。そのままレバーを持ち上げるようにしてソケットとの角度が 90 度になるまで開きます。



2. ソケットのピン1とCPUの白い点か端が欠けている場所を確認してください。それらを合わせるようにしてCPUをソケットに挿入してください。



3. レバーを押し下げて元の位置に戻してください。



WARNING!

CPU が過剰な熱を持つと破損する場合があります。使用される冷却ファンが正常に動作することを必ず確認してからCPUの取り付けを行ってください。

CPU クロックの設定

<u>CPU Clock</u>	=	100MHz
<u>Core/Bus ratio</u>	=	14
<u>CPU core speed</u>	=	<u>Host Clock</u> x <u>Core/Bus ratio</u>
	=	100MHz x 14
	=	1.4GHz



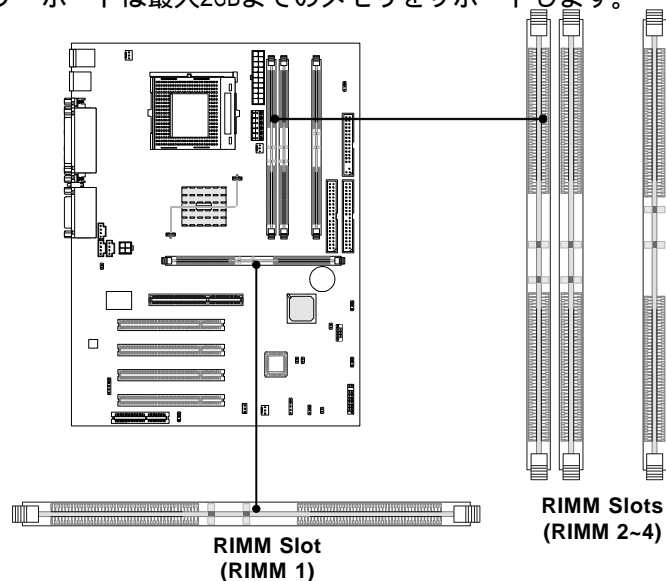
WARNING!

オーバークロック

本製品はオーバークロックができる仕様になっております。しかしオーバークロック中に他のコンポーネントがその設定を許容できるかどうか気をつけてください。弊社では製品の規格外で動作させた場合に起こる得る製品の損傷やリスクに関して一切の保証をいたしません。

メモリアインストール

このマザーボードには168ピンRIMMモジュールのための4つのgold-leadソケットがあります。本製品が正常に動作するためには最低2つのRIMMモジュールがインストールされていなければなりません。このマザーボードは最大2GBまでのメモリをサポートします。



メモリを使用する際の注意事項

- ・RIMMのみサポート
- ・正常に動作させるためにはRIMMバンク同種類の同容量のメモリを使用してください
- ・FSB 100MHz サポート: PC800 RIMM
- ・最大32個のダイレクトランバス機器サポート
- ・ECCシングルビット修正および複数ビットエラー検出サポート (BIOSによって設定)
- ・2つのRIMMモジュールを「RIMM 1とRIMM 2」または「RIMM3とRIMM4」スロットにインストールしてください
- ・2つのRIMMスロットにしかメモリをインストールしていない場合は、未使用のRIMMスロットに必ずCRIMMをインストールしてください

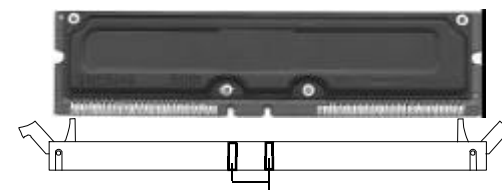
RIMMモジュールのインストール手順

お客様の必要に応じて2つまたは4つのRIMMモジュールをRIMMスロットにインストールすることができます。



RIMM モジュール

1. RIMMスロットには2つの切り欠けがあるのでRIMMメモリモジュールは一方方向にしか挿すことができなくなっております。
2. RIMMメモリモジュールを垂直にRIMMスロットに挿して、押し込んでください。



3. 両側のプラスチッククリップが自動的に閉まります。
4. もう一方のRIMMスロットにRIMMモジュールを一つもさして区内場合は、空のスロットに必ずCRIMMモジュールをインストールしてください。



CRIMM モジュール

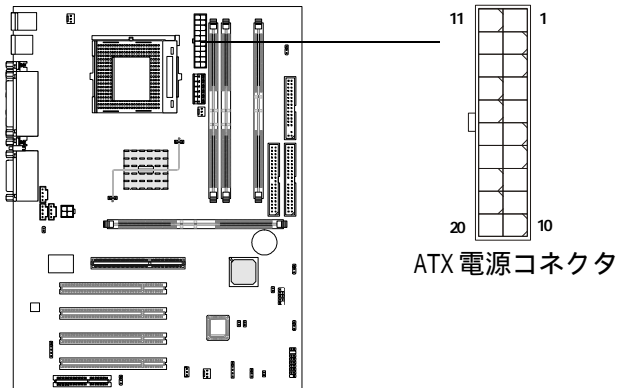
注意: オーバークロックのためにRDRAM電圧を変更したい場合は、「RDRAM Over Voltage Jumper: J20」を参照してください。

電源

本製品はATX電源をサポートします。電源コネクタを差し込む前に必ずすべてのコンポーネントが正しくインストールされていることを確認してください。ATX電源に接続する際は、電源プラグが必ず正しい方向にピンがきちんと並んで挿入するようにしてください。その後、電源プラグをコネクタに強く押し込んでください。

ATX 20-ピン電源コネクタ

ATX電源のコネクタを向きに注意して挿し込みます。この電源コネクタはコネクタをマザーボードに接続された瞬間に電源が入る、インスタントパワーオン機能をサポートしています。

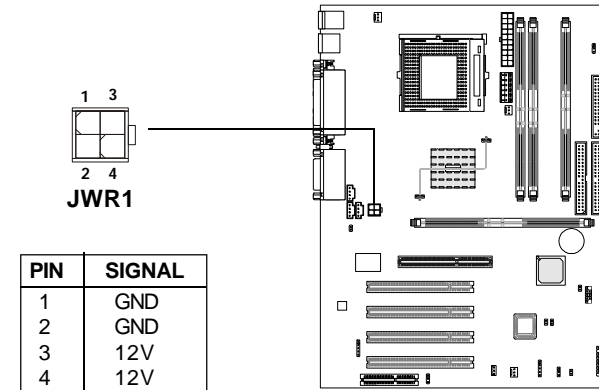


ATX 電源コネクタ

PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	3.3V	11	3.3V
2	3.3V	12	-12V
3	GND	13	GND
4	5V	14	PS_ON
5	GND	15	GND
6	5V	16	GND
7	GND	17	GND
8	PW_OK	18	-5V
9	5V_SB	19	5V
10	12V	20	5V

ATX 12V 電源コネクタ: JWR1

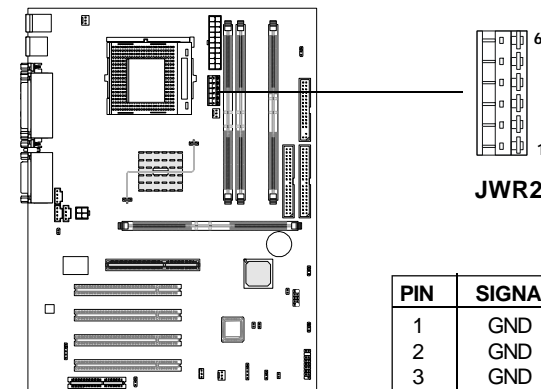
このコネクタにATX電源を接続するとPentium 4 CPUに十分な電圧を供給する補助になります。この電源コネクタはまたインスタントパワーオン機能をサポートします。



PIN	SIGNAL
1	GND
2	GND
3	12V
4	12V

ATX 5V/3V 電源コネクタ: JWR2

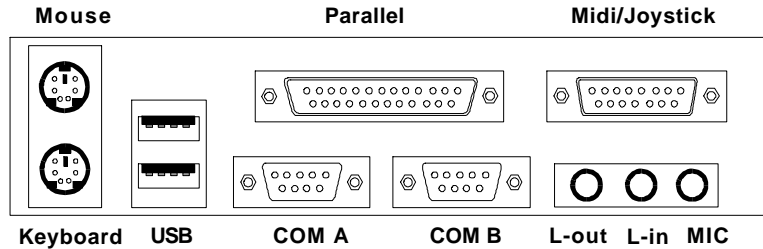
本製品はATX電源供給に接続するための5V/3V予備電源コネクタがあります。



PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	GND	4	3.3V
2	GND	5	3.3V
3	GND	6	5V

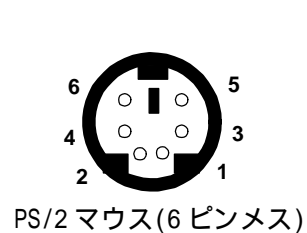
背面パネル

本製品には下図のような背面パネルがあります。



マウスコネクタ

このマザーボードはPS/2(R)マウスに接続するための標準PS/2(R)マウスミニDINコネクタが1つ用意されています。このコネクタに直接PS/2(R)マウスのケーブルを接続することができます。

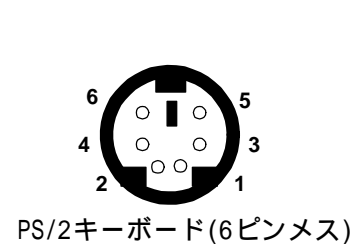


ピン定義

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	Mouse DATA	Mouse DATA
2	NC	No connection
3	GND	Ground
4	VCC	+5V
5	Mouse Clock	Mouse clock
6	NC	No connection

キーボードコネクタ

このマザーボードはPS/2(R)キーボードに接続するための標準PS/2(R)キーボードミニDINコネクタが1つ用意されています。このコネクタに直接PS/2(R)キーボードのケーブルを接続することができます。

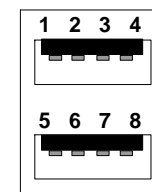


ピン定義

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	Keyboard DATA	Keyboard DATA
2	NC	No connection
3	GND	Ground
4	VCC	+5V
5	Keyboard Clock	Keyboard clock
6	NC	No connection

USBコネクタ

本製品にはキーボード、マウスなどのUSB機器を接続するためのUHCI(Universal Host Controller Interface) Universal Serial Bus rootが搭載されています。USB機器を直接このコネクタに接続することができます。

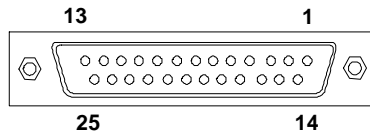


USBポート説明

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	VCC	+5V
2	-Data 0	Negative Data Channel 0
3	+Data0	Positive Data Channel 0
4	GND	Ground
5	VCC	+5V
6	-Data 1	Negative Data Channel 1
7	+Data 1	Positive Data Channel 1
8	GND	Ground

パラレルポートコネクタ

このマザーボードはLPT用の25ピン メスのコネクタが1つ用意されています。パラレルポートは標準プリンタポートでEnhanced Parallel Port (EPP)とExtended capabilities Parallel Port (ECP)をサポートします。コネクタの位置とピンの定義は下図をご覧ください。

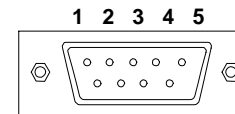


ピン定義

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	STROBE	Strobe
2	DATA0	Data0
3	DATA1	Data1
4	DATA2	Data2
5	DATA3	Data3
6	DATA4	Data4
7	DATA5	Data5
8	DATA6	Data6
9	DATA7	Data7
10	ACK#	Acknowledge
11	BUSY	Busy
12	FE	Paper End
13	SELECT	Select
14	AUTOFEED#	Automatic Feed
15	ERR#	Error
16	INIT#	Initialize Printer
17	SLIN#	Select In
18	GND	Ground
19	GND	Ground
20	GND	Ground
21	GND	Ground
22	GND	Ground
23	GND	Ground
24	GND	Ground
25	GND	Ground1

シリアルポートコネクタ: COM A & COM B

このマザーボードはシリアルポートCOMAおよびCOMBのための9ピンオスの DINコネクタが2つ用意されています。マウスや他のシリアル機器をこのコネクタに接続することができます。



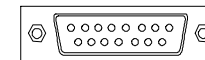
9ピンオス DIN コネクタ

ピン定義

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	DCD	Data Carry Detect
2	SIN	Serial In or Receive Data
3	SOUT	Serial Out or Transmit Data
4	DTR	Data Terminal Ready)
5	GND	Ground
6	DSR	Data Set Ready
7	RTS	Request To Send
8	CTS	Clear To Send
9	RI	Ring Indicate

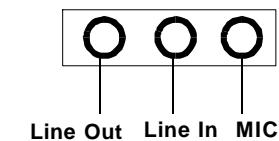
ジョイスティック /MIDI コネクタ

このコネクタにジョイスティックやゲームパッドを接続できません。



オーディオポートコネクタ

Line Out にはスピーカまたはヘッドホン接続します。Line In にはCDプレーヤ、カセットプレーヤなどのオーディオ機器を接続します。Mic にはマイクを接続します。

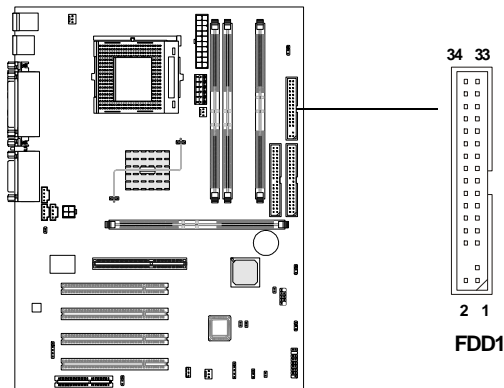


コネクタ

本製品にはFDD、IDE HDD、IDE RAID HDD、ケース、モデム、LAN、USBポート、赤外線モジュール、CPU/電源/システムファンに接続するためのコネクタがあります。

フロッピーディスクコネクタ: FDD1

本製品は360K、720K、1.2M、1.44M及び2.88Mのフロッピーディスクドライブに対応しています。このコネクタは付属のフロッピードライブリボンケーブルをサポートしています。



ハードディスクコネクタ: IDE1 & IDE2

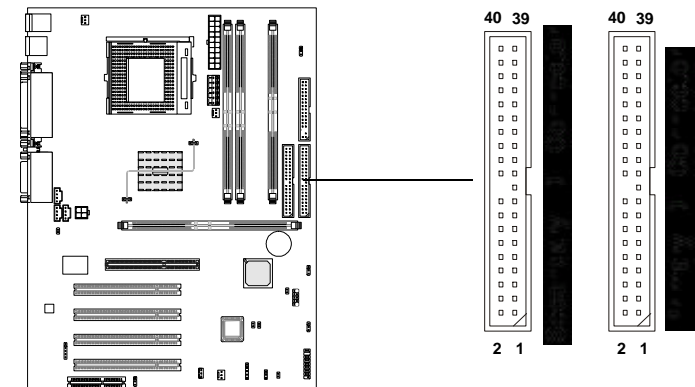
本製品に搭載しているIDEコントローラはPIOモード0-4、バスマスタ、及びUltraDMA33/66/100に対応した32-bitエンハンスドIDEコントローラです。本製品にはIDE1(プライマリ)、IDE2(セカンダリ)の2つのHDDコネクタがあり、計4つのHDD又はCD-ROM、120MBフロッピー、その他のIDE/ATAPIデバイスを接続することができます。これらのコネクタは付属のIDEハードディスクケーブルをサポートしています。

IDE1 (プライマリ IDE コネクタ)

1台目のHDDは必ずIDE1(プライマリ)に接続します。IDE1にはマスターとスレーブの2つIDE/ATAPIのデバイスを接続することができます。

IDE2 (セカンダリ IDE コネクタ)

IDE2にもマスターとスレーブの2つIDE/ATAPIのデバイスを接続することができます。

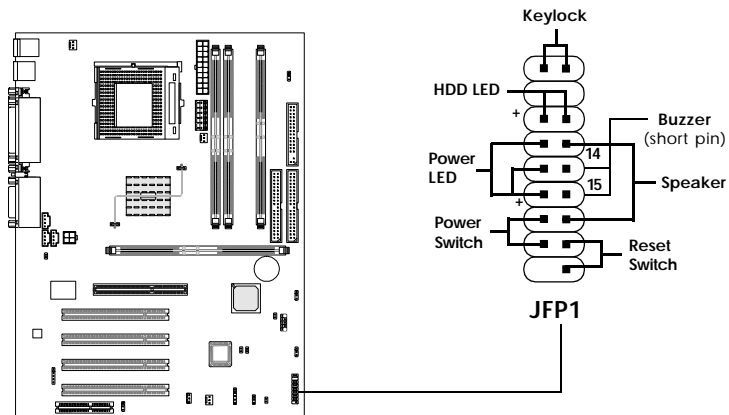


参考

2つのハードディスクを1つのケーブルに接続する場合は2台目のHDDの設定をジャンパでスレーブに切り替える必要があります。詳しくはハードディスクベンダーのジャンパ設定に関する説明書を参照してください。

ケースコネクタ: JFP1

ケースの電源スイッチ、リセットスイッチ、キーロック、スピーカ、パワー LED、HDD LED を下図の通りに JFP1 に接続します。



パワースイッチ

2-ピン押しボタンスイッチに接続してください。このスイッチはJRMS1と同じ機能です。

リセットスイッチ

リセットスイッチはシステムの電源を入れたり切ったりするのではなく、リブートをかけるものです。システムケースのリセットスイッチをこのピンに接続してください。

パワー LED

システムに電源が入っているときは、パワー LED が点灯します。システムケースのパワー LED をこのピンに接続してください。LED には以下の3種類があります。

2ピン単色電源 LED: ピン 5、6 に接続してください。システムがサスペンド/スリープモードに入ると2ピン電源 LED は点滅します。

2ピン2色電源 LED: ピン 5、6 に接続してください。2ピン電源 LED はシステム状態を表すのに色を変更します:

緑色はフルモードを示唆

橙色はサスペンド/スリープモードを示唆

3ピン2色電源 LED: ピン 4、5、6 に接続してください。3ピン電源 LED もシステム状態を表すのに色を変更します:

緑色はフルモードを示唆

橙色はサスペンド/スリープモードを示唆

スピーカ

ケーススピーカをこのピンに接続します。オンボードブザーを使用する場合は、

ピン 14-15 をショート: オンボードブザー有効

ピン 14-15 をオープン: オンボードブザー無効

HDD LED

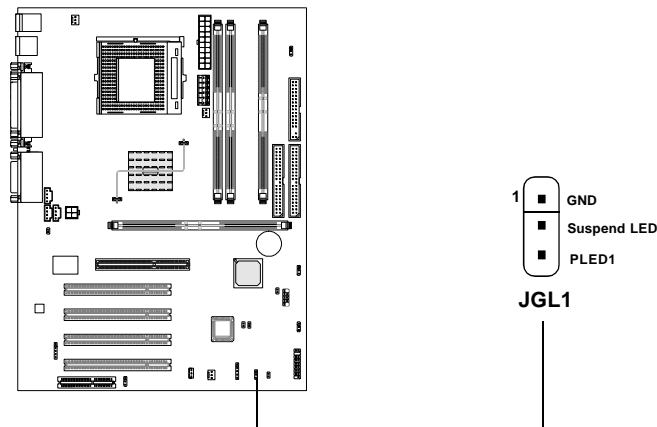
HDD LED はハードディスクの動作を示します。システムケースの HDD LED をこのピンに接続してください。

キーロック

キーロックはセキュリティのためにキーボード無効にすることができます。キーロックをこのコネクタに接続してください。

省電力 LED コネクタ: JGL1

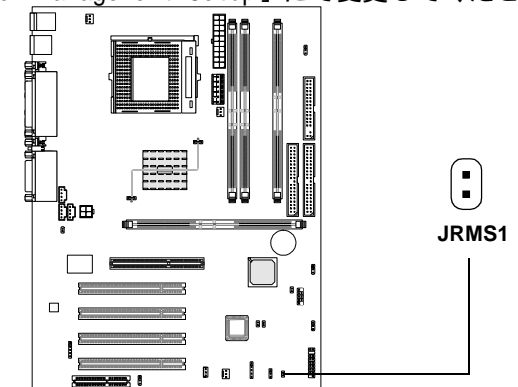
JGL1は省電力LEDと接続します。2種類のLEDを使用することができます。2ピンLEDをJGL1に接続するとシステムが稼動中はLEDの色が緑に点灯します。スリープモードの時は緑からオレンジ色に変わります。3-ピンLEDをJGL1に接続するとシステムが稼動中は点灯し、サスペンド/スリープモードにはいと点滅します。



3-ピンLED	2-ピンLED
1-2 単色 1-3 点滅	1-2 2色

リモート電源オン/オフスイッチコネクタ: JRMS1

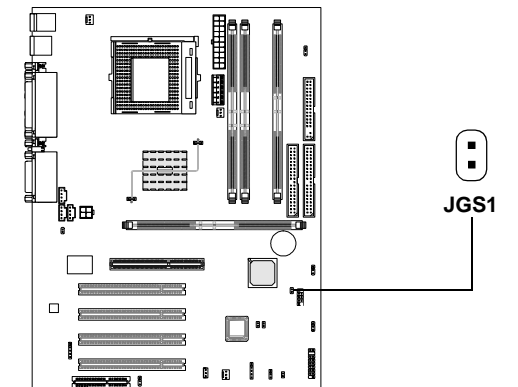
2ピン押しボタンスイッチに接続します。オフのときはボタンを押すとシステムの電源がオンになります。オンのときはボタンを一度押すとシステムがスリープ/サスペンドモードに入ります。ボタンを4秒以上押し続けるとシステムの電源が切れます。この設定を変更したい場合は、「BIOS Power Management Setup」にて変更してください。



JRMS1

省電力スイッチコネクタ: JGS1

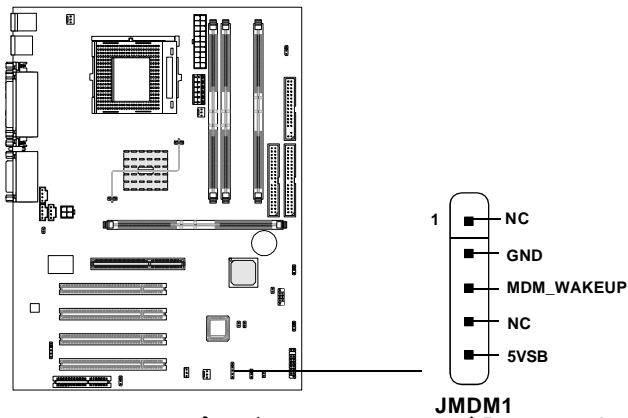
省電力スイッチをJGS1に接続して下さい。スイッチを押すと、システムはすぐにサスペンドモードに入ります。何かキーを押すとサスペンドモードから普通の状態に戻ります。



JGS1

Wake On Ring コネクタ: JMDM1

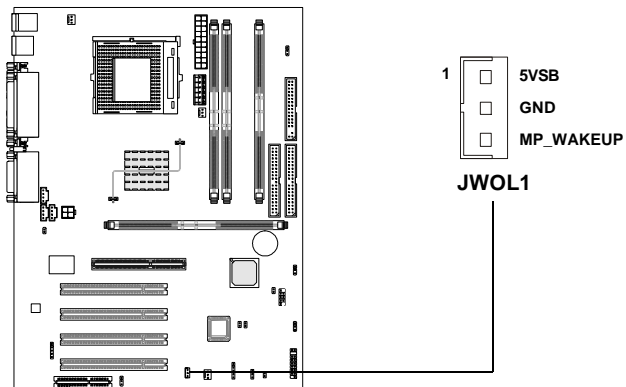
このコネクタはWake On Ring 機能のあるモデムカードと接続します。モデムカードから信号を受信するとシステムが起動します。



注意: モデムウェイクアップシグナルはアクティブ「Low」です。

Wake On LAN コネクタ: JWOL1

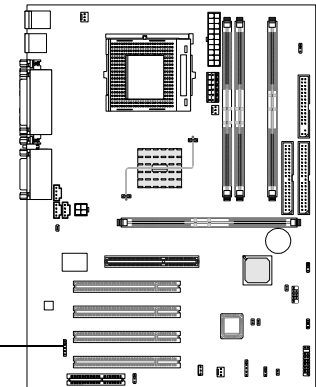
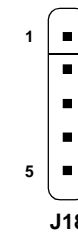
このコネクタはWake On LAN 機能のあるLANカードと接続します。ローカルエリアネットワークでリモートコントロールでコンピュータを起動させることができます。



IrDA 赤外線モジュールコネクタ: J18

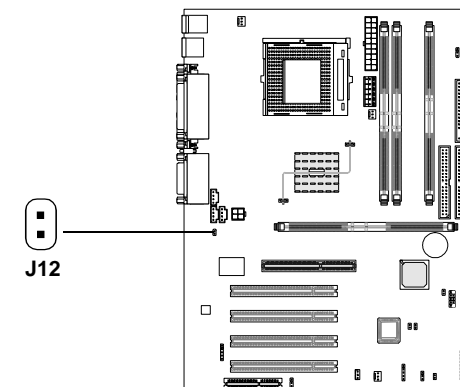
このコネクタはIrDA赤外線モジュールを接続することができます。この赤外線機能を使用するためにはBIOSの中で設定変更を行う必要があります。

Pin	Signal
1	VCC
2	NC
3	IRRX
4	GND
5	IRTX



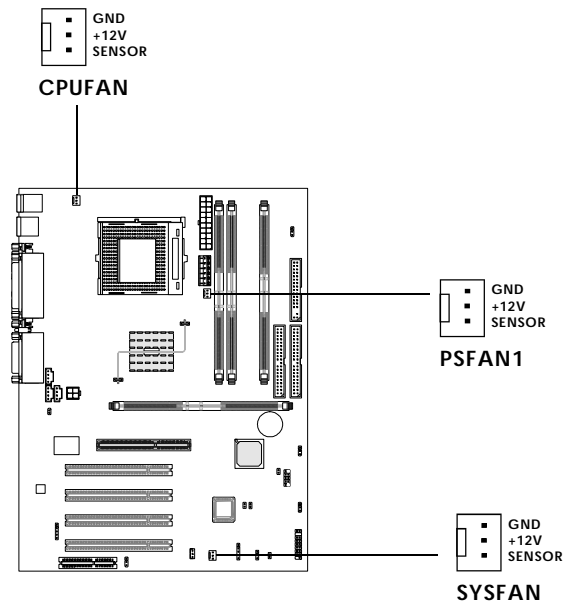
ケース内侵入スイッチコネクタ: J12

このコネクタは2ピンのケーススイッチに接続してください。ケースが開いている場合は、スイッチはショートになります。システムはこの状態を記録して画面に警告メッセージを表示します。この警告をクリアするにはBIOS設定画面に入って記録を消去する必要があります。



ファン電源コネクタ: CPUFAN/SYSFAN/PSFAN

CPUFAN(プロセッサファン)、SYSFAN(システムファン)、PSFAN1(電源ファン)は+12Vの冷却ファンをサポートします。3ピンヘッドコネクタをサポートします。接続するときに注意しなければならないのは、赤い線はプラスなので+12Vに、黒い線はアースなのでGNDに接続することです。また、本製品のシステムハードウェアモニタ機能を使用する場合はファン回転数センサー機能がついたファンを使用する必要があります。

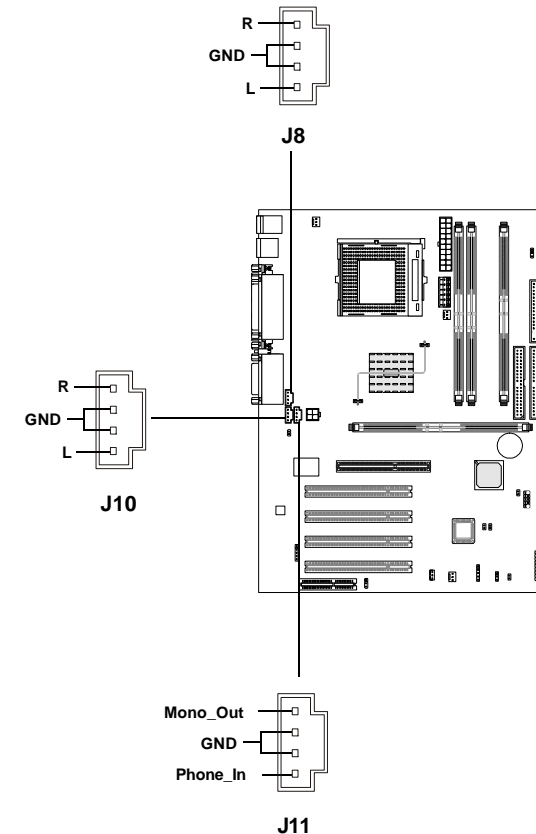


■参考

回転数センサー付きのファンは、ファンが1回転する間に2つの信号を送ります。システムハードウェアモニタはそれを感知し、ファンの回転数を報告します。また、PC Alertユーティリティを使用すると、WINDOWS上でファンの回転数を監視することができます。

CD-In/ 外部音声入力 /Modem-In コネクタ: J8/J10/J11

J8 コネクタはCD-ROM オーディオコネクタに接続します。
J10 コネクタはDVD アドオンカードのLine-in コネクタに接続します。
J11 コネクタはモデムの内部オーディオコネクタに接続します。



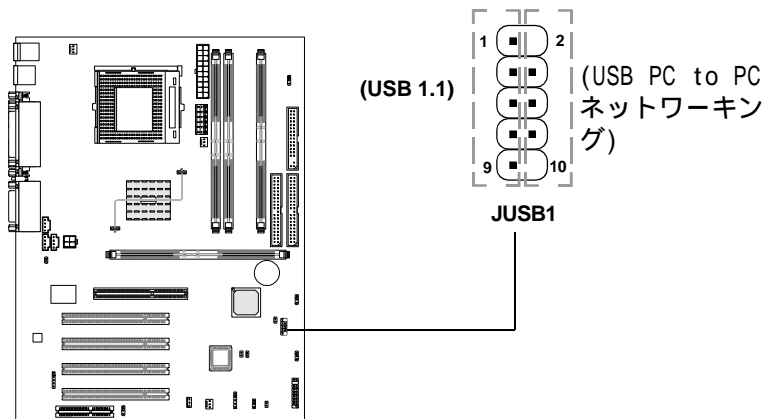
■参考

Mono_Outはモデムスピーカ出力コネクタに接続します。
Phone_Inはモデムマイク入力コネクタに接続します。

USB PC To PC コネクタ: JUSB1 (オプション)

本製品にはオプションのUSBポートを接続することができるUSB (Universal Serial Bus)ピンヘッダがあります。JUSB1はUSB PC to PCネットワーク機能を提供することができます(オプション)。

製品の種類によって、3つのUSB 1.1ポートまたは1つのUSB PC2PCポートまたは4つのUSB 1.1ポートがあります。ここではUSB PC2PC機能について説明します。



JUSB1 Pin Definition

Pin	Description	Pin	Description
1	VCC	2	NC
3	USB3-	4	GND
5	USB3+	6	USB2+
7	GND	8	USB2-
9	GND	10	NC

注意: USB PC to PCネットワーク機能によってネットワークアダプタを使用せずに他のコンピュータとの間でデータを転送したりリソースを共有したりすることができます。詳しくは下記説明をご参照ください。

USB PC to PC ケーブルを接続

1. 次の付属品がパッケージに入っていることを確認してください。もし入っていない場合は、販売店に連絡してください。



USB PC to PC Bracket

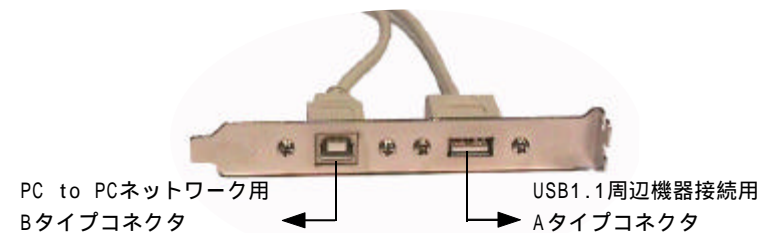


USB PC to PC Cable

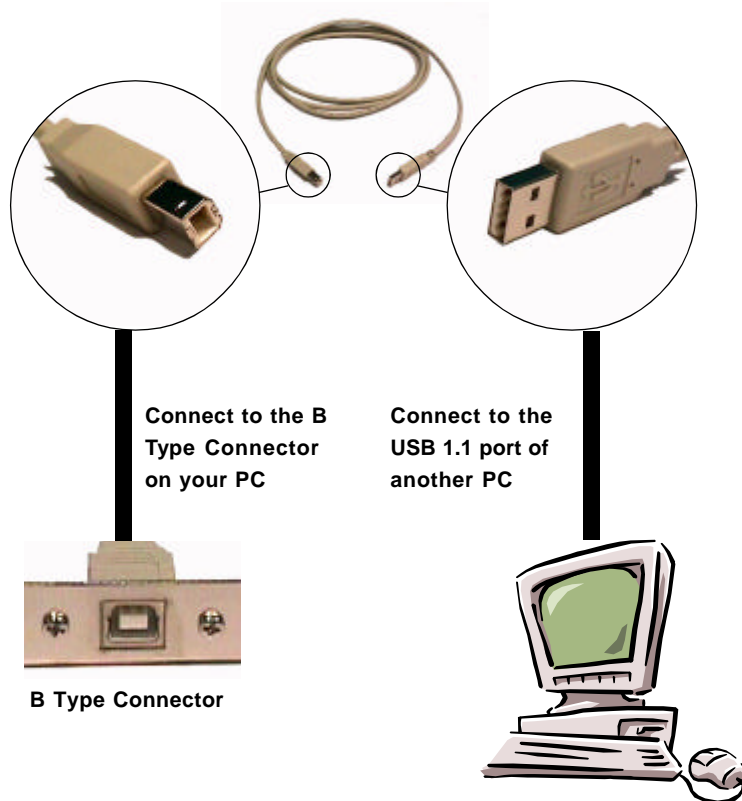
2. USB Bracket ケーブルをマザーボード上のJUSB1ピンヘッダーに接続してください。USBブラケットコネクタの矢印の位置とJUSB1のピン#2の位置を確認してください。それらの位置を合わせるようにUSBブラケットを挿入してください。



3. PC to PCネットワーク機能に使用されるブラケット上のBタイプコネクタを確認してください。



4. USB PC to PC ケーブルを使って別の PC と接続してください。転送速度は USB 1.1 の速度 (12Mbps/s) になります。



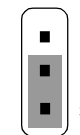
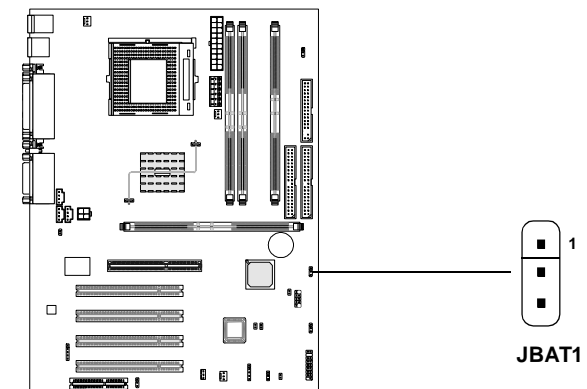
USB PC to PC ネットワーキング機能についての詳細は、追記: USB PC to PC ネットワーク機能を参照してください。

ジャンパ

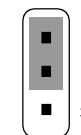
本製品は以下のジャンパによってコンピュータの機能を設定することができます。このセクションではジャンパを使用してマザーボードの機能を変更する方法を説明します。

クリア CMOS ジャンパ: JBAT1

本製品は電池によって、マザーボードの設定を CMOS RAM で保存しています。JBAT1 の 1-2 ピンがショートしている時、CMOS データをキープしています。マザーボードの CMOS の内容をクリアするためには電源が入っていないときに 2-3 ピンをショートさせます。



データクリア



キープデータ

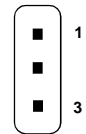
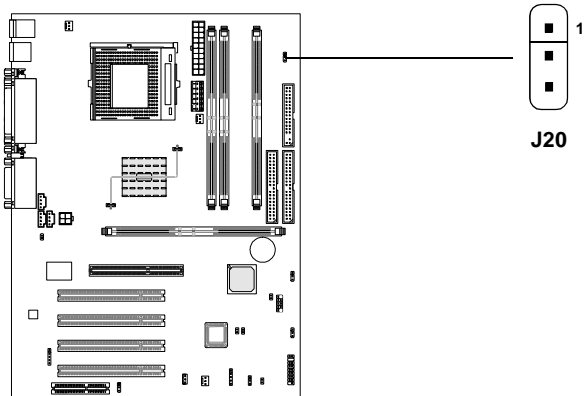


WARNING!

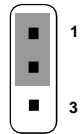
システム起動時の CMOS のクリアは絶対止めて下さい。マザーボードの破損や火災などに及ぶ危険があります。必ず電源コードを抜いて下さい。

RDRAM オーバー電圧ジャンパ: J20

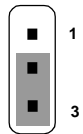
このジャンパではオーバークロックのためにRDRAM電圧を調整することができます。



通常
(2.5V)



オーバー電圧
(2.58V)



オーバー電圧
(2.68V)



WARNING!

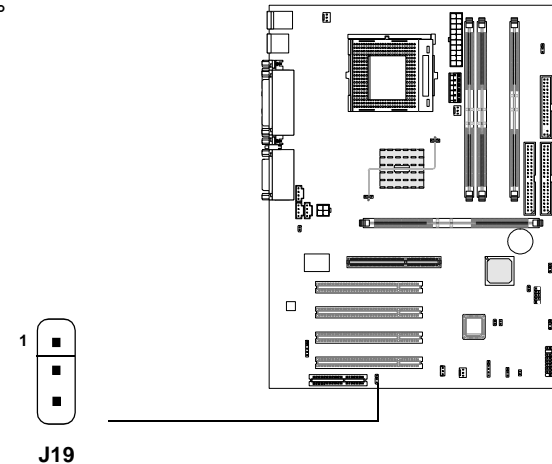
オーバー電圧

本製品はオーバー電圧ができる仕様になっております。しかしオーバー電圧中に他のコンポーネントがその設定を許容できるかどうか気をつけてください。弊社では製品の規格外で動作させた場合に起こる得る製品の損傷やリスクに関して一切の保証をいたしません。

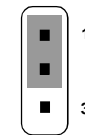
システムがオンの時にJ20を設定することはやめてください。RDRAM モジュールが破損します。

オンボードコーデックジャンパ: J19

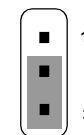
このジャンパはオンボードソフトウェアオーディオコーデックを有効/無効に設定することができます。オンボードオーディオコーデックを有効にするとシステムはオンボードコーデックをプライマリオーディオアダプタとして、インストールされたCNRカードをセカンダリオーディオアダプタとして使用します。しかしCNRカードの種類によってはセカンダリに設定できないものがあり、この場合システムの競合を防ぐためにオンボードオーディオコーデックを無効に設定する必要があります。



J19



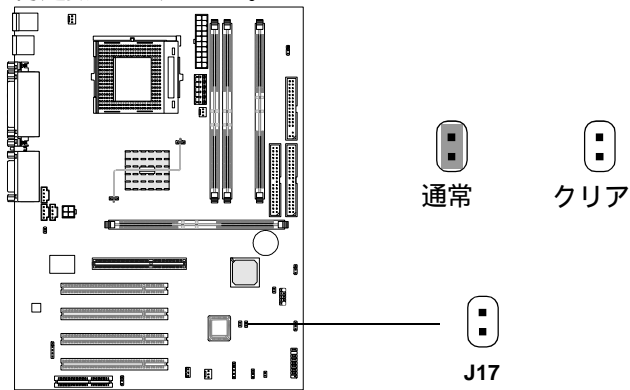
オンボード
オーディオ
コーデック
有効



オンボード
オーディオ
コーデック
無効

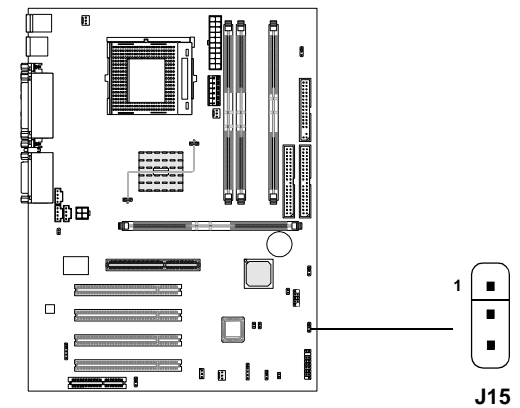
クリア BIOS パスワードジャンパ: J17

このジャンパによってBIOSパスワードをクリアすることができます。パスワードをクリアするには、ジャンパをオープンにしてコンピュータを再起動してください。



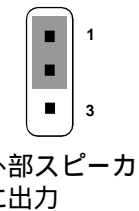
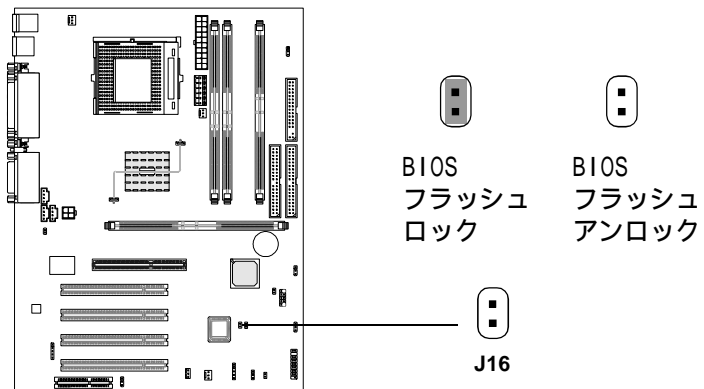
ビープデバイスジャンパ: J15

ビープ音を出力するデバイスを選択するジャンパです。

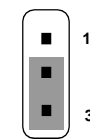


BIOS フラッシュジャンパ: J16

このジャンパによってBIOSのブートブロック領域をロックしたりアンロックしたりすることができます。アンロックされている場合は、BIOSブートブロック領域を更新することができます。ロックされている場合は、BIOSブートブロック領域は更新できません。



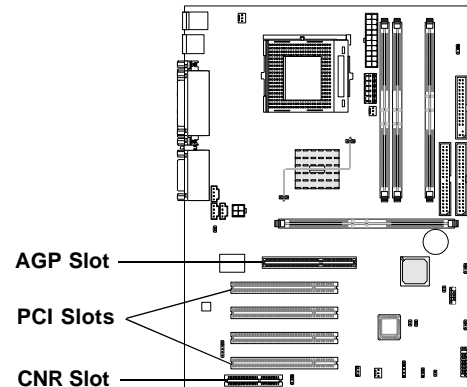
外部スピーカ
に出力



オンボードブザー
に出力

スロット

本製品には4つの32ビットマスタPCIバススロット、1つのAGPスロット、1つのCNRスロットがあります。



AGP(Accelerated Graphics Port)スロット

AGPスロットはAGPグラフィックカードだけを挿すことができます。AGPとは3Dグラフィックの処理能力の需要のために開発されたインターフェイス規格です。グラフィックコントローラが66MHz、32ビットチャンネルを利用してメインメモリに直接アクセスすることができ3種類の処理レベルを実現します: 1x (266Mbps)、2x (533Mbps)、4x (1.07Gbps)。このスロットは1.5V AGPカードのみをサポートします。

PCI スロット

本製品には4つのPCIスロットがあり、それぞれにPCI拡張カードをインストールすることができます。拡張カードを挿したり抜いたりする際は必ず電源を抜いて作業を行ってください。また必ず拡張カード付属のマニュアルをよく読んでジャンパ、スイッチ、BIOS設定などの必要なハードウェア、ソフトウェアの変更を行ってください。

CNR(Communication Network Riser)スロット

CNRスロットにはCNR拡張カードを挿すことができます。CNRスロットはATX製品のために特別に設計されたネットワーク、オーディオ、モデムライザーカードです。主な処理はソフトウェアを通して行われ、マザーボードのチップセットによって制御されます。

PCI 割り込み要求ルーティング

IRQとはデバイスがマイクロプロセッサに割り込み要求シグナルを送るハードウェアの線です。PCI IRQピンPCIバスに次のように接続されています。

	Order 1	Order 2	Order 3	Order 4
PCI Slot 1	INT C#	INT F#	INT G#	INT A#
PCI Slot 2	INT F#	INT G#	INT A#	INT C#
PCI Slot 3	INT G#	INT A#	INT C#	INT F#
PCI Slot 4	INT A#	INT C#	INT F#	INT G#

PCI スロット1-4: バスマスタ

AWARD(R) BIOS 設定

3

Award BIOS ROMにはユーザーが基本的なシステム設定を変更できるようにセットアップメニューが用意されています。この情報はCMOS RAMによって保存されるので、電源が切断された後でも、設定情報が消えるということはありません。

第三章は以下の項目を含みます。

BIOS 設定画面の起動	3-2
コントロールキー	3-2
ヘルプ	3-3
メインメニュー	3-4
Standard CMOS Features	3-6
Advanced BIOS Features	3-8
Advanced Chipset Features	3-12
Integrated Peripherals	3-14
Power Management Setup	3-19
PnP/PCI Configurations	3-23
PC Health Status	3-25
Frequency/Voltage Control	3-27
Load Fail-Safe/Optimized Defaults	3-29
Set Supervisor/User Password	3-31

BIOS 設定画面の起動

コンピュータを起動するとシステムはPOST(Power On Self Test)過程に入ります。下記のメッセージが画面に表示されている間にキーを押すと設定画面に入ることができます。

Hit DEL if you want to run SETUP

セットアップに入ろうとしたが間に合わずに上の表示が消えてしまった場合は電源を一度切って入れ直すか、リセットスイッチを押し直すかまたは、<Ctrl>と<Alt>と<Delete>キーを同時に押すことによって再起動して下さい。

コントロールキー

<↑>	前項目に移動
<↓>	次項目に移動
<←>	左項目に移動
<→>	右項目に移動
<Enter>	項目を選択
<Esc>	メニューにジャンプ、またはサブメニューからメインメニューに移動
<+/PU>	数字を増加、または設定を変更
<-/PD>	数字を減少、または設定を変更
<F1>	ヘルプ、「Status Page Setup Menu」と「Option Page Setup Menu」専用
<F5>	以前の CMOS データを再読み込み 「Option Page Setup Menu」専用
<F6>	デフォルトテーブルよりデフォルト CMOS データを読み込み、「Option Page Setup Menu」専用
<F7>	Optimized デフォルトの読み込み
<F10>	すべての CMOS データを保存して BIOS 画面を終了

ヘルプ

BIOS設定に入るとまず表示されるのがこのメインメニューです。

メインメニュー

メインメニューにはBIOSが提供する設定項目が各カテゴリー別に表示されます。方向キー()を使って項目を選択してください。ハイライトされた設定項目の説明がスクリーンの下にオンラインで表示されます。

サブメニュー

右図のように右矢印がある項目の左に表示されている場合は、この項目の下にさらに追加オプションを含むサブメニューがあることを意味します。サブメニューに入るには項目をハイライトして<Enter>を押してください。これでサブメニューの項目をコントロールキーを使用して選択、変更することができます。メインメニューに戻るには<Esc>を押してください。

```

▶ IDE Primary Master
▶ IDE Primary Slave
▶ IDE Secondary Master
▶ IDE Secondary Slave

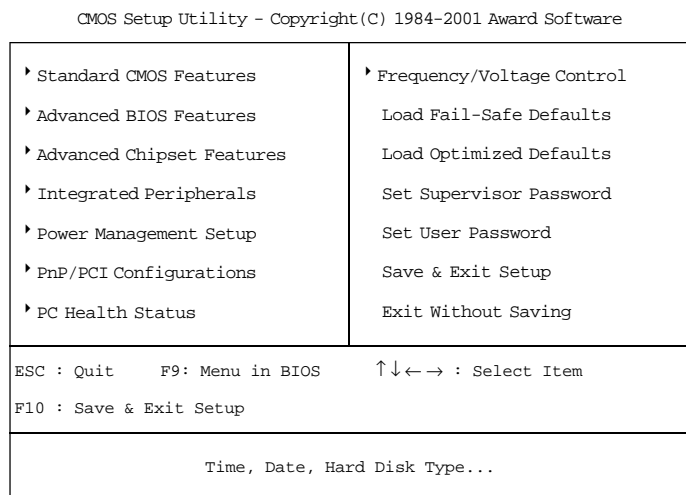
```

General Help <F1>

<F1> を押すと使用すべきキーやハイライトされた項目の選択肢の解説がポップアップウィンドウで開きます。ヘルプウィンドウを閉じるには、<F1>か<Esc>を押してください。

メインメニュー

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティに入ると、メインメニュー(下図)がスクリーンに表示されます。メインメニューでは、設定項目が11個、終了項目が2個あります。方向キーを使って項目を選択し、<Enter>を押してサブメニューに入ります。



Standard CMOS Features

システムの基本的な設定をします。

Advanced BIOS Features

システムの特別機能の設定を行います。

Advanced Chipset Features

チップセットに関する設定をしてシステムの性能を最適化します。

Integrated Peripherals

IDE、シリアル、パラレルなどの各 I/O ポートの設定をします。

Power Management Setup

電源管理に関する設定を行います。

PnP/PCI Configuration

PCIバスなどの拡張スロットに関する設定をします。

PC Health Status

システムの温度、ファン回転速度などが表示されます。

Frequency/Voltage Control

周波数、電圧などの設定をします。

Load Fail-Safe Defaults

システム動作のための最も安全なデフォルト設定をロードします。

Load Optimized Defaults

システム動作に最適なデフォルト設定をロードします。

Supervisor/User Password

User および Supervisor パスワードを設定します。

Save & Exit Setup

変更した CMOS 設定値を保存してセットアップを終了します。

Exit Without Saving

変更した CMOS 設定値を保存せずにセットアップを終了します。

Standard CMOS Features

Standard CMOS Setupメニューには10個の項目があります。それぞれの項目に複数の選択肢があります。方向キーを使って項目をハイライトしてから、<PgUp>と<PgDn>キーを使って適切な値を選択してください。

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
Standard CMOS Features

Date(mm:dd:yy):	Fri, Feb 28,1999	Item Help
Time(hh:mm:ss):	00:00:00	
IDE Primary Master	Press Enter 2557MB	Menu Level >
IDE Primary Slave	Press Enter None	
IDE Secondary Master	Press Enter None	
IDE Secondary Slave	Press Enter None	
Drive A	1.44M, 3.5in.	
Drive B	None	
Video	EGA/VGA	
Halt On	All , But Keyboard	
Based Memory	640K	
Extended Memory	64512K	
Total Memory	65536K	
↑ ↓ → ← Move Enter:Select +/-/PU/PD=Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults		

Date

<曜日><月><日><年>の書式です。

曜日 日曜日から土曜日までの曜日です。自動的に設定されます。

月 1月から12月までの月を設定します。

日 1から31までの日を設定します。

年 年を設定します。

Time

<時><分><秒>の書式です。

PrimaryMaster/PrimarySlave

SecondaryMaster/Secondary Slave

PgUp/<+>、PgDn/<->を使ってManual、None、Autoを選択してください。お使いのハードドライブの仕様とドライブテーブルの仕様は一致しなければなりません。この項目に誤った情報を入力するとハードディスクは正常に動作しません。もしお使いのハードディスクがリストに載っていない場合はハードドライブのマニュアルを参照して手動で仕様を入力してください。

手動を選択した場合は以下の項目について正しい情報を入力してください。キーボードつかって直接情報を入力してください。これらの情報はハードディスクメーカーもしくはシステムメーカーによって提供されています。

<u>Access Mode</u>	HDDのアクセスモード
<u>Capacity</u>	HDDのフォーマットサイズ
<u>Cylinder</u>	HDDのシリンダ数
<u>Head</u>	HDDのヘッド数
<u>Precomp</u>	書き込み補修シリンダ番号
<u>Landing Zone</u>	HDDヘッド退避シリンダ位置
<u>Sector</u>	HDDのセクタ数

Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
Advanced BIOS Features

Virus Warning	Disabled	Item Help
BIOS Flash Write Control	Disabled	
CPU L1 & L2 Cache	Enabled	Menu Level >
Quick Power On Self Test	Enabled	
First Boot Device	Floppy	
Second Boot Device	HDD-0	
Third Boot Device	LS120	
Boot Other Device	Enabled	
Swap Floppy Drive	Disabled	
Boot Up Floppy Seek	Enabled	
Boot Up Numlock Status	On	
Gate A20 Option	Fast	
Typematic Rate Setting	Disabled	
Typematic Rate (Chars/Sec)	6	
Typematic Delay (Msec)	250	
Security Option	Setup	
OS Select for DRAM > 64MB	Non-OS2	
HDD S.M.A.R.T. Capability	Disabled	
Report No FDD for Win 95	No	

↑↓→← Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults

Virus Warning

システムが起動する間及び起動後にブートHDDのブートセクタやパーティションテーブルに何か書き込もうとすると、システムが停止してエラーメッセージが表示します。

Disable (デフォルト) ブートセクタかハードディスクのパーティションテーブルに何か書き込まれそうになっても画面に警告メッセージは表示されません。

Enable 起動時に自動的に立ち上がりブートセクタかハードディスクのパーティションテーブルに何か書き込まれそうになると画面に警告メッセージが表示されます。

BIOS Flash Write Control

このオプションはBIOSフラッシュ書き込み制御を有効/無効に設定します。

Enabled フラッシュユーティリティを使用してBIOSを更新することができます。

Disabled (デフォルト)BIOS 書き込み不可

CPU L1 & L2 Cache

キャッシュメモリはDRAM(システムメモリ)よりも高速なメモリです。CPUがデータを要求したときシステムは要求されたデータをメインDRAMからキャッシュメモリに転送してCPUがより速くアクセスできるようにします。

Enabled (デフォルト) キャッシュ有効

Disabled キャッシュ無効

注意: 内部キャッシュはプロセッサに内蔵されています。

Quick Power On Self Test

この設定は、起動後の Power On Self Test (POST) をスピードアップさせます。有効の場合、メモリカウントが1回になります。無効の場合、3回です。

Enabled (デフォルト) 高速 POST 有効

Disabled 通常 POST

First/Second/Third Boot Device/Boot Other Device

BIOSはここで指定された順番でドライブからOSを起動しようとします。選択肢はFloppy, LS120, HDD-0/SCSI, CD-ROM, HDD-1/HDD-2/HDD-3, ZIP100, USB-FDD, USB-ZIP, USB-CDROM, USB-HDD, LAN, Disabledです。

Swap Floppy Drive

A, Bドライブを B, Aのようにドライブ割当の交換を行うかどうか設定します。

Boot Up Floppy Seek

POSTの最中、インストールされているフロッピーディスクドライブが40トラックか、80トラックかをBIOSが判断します。360K は40トラック、760K、1.2M、1.44Mはすべて80トラックです。

Boot Up NumLock Status

デフォルトはOnです。

On (デフォルト) キーパッドは数字キー
Off キーパッドは方向キー

Gate A20 Option

Normal A20信号はキーボードコントローラまたはチップセットハードウェアによって制御されます。
Fast (デフォルト) A20信号はポート92またはチップセット特有の方法で制御されます。

Typematic Rate Setting

キーボードのリピート入力処理を有効にするかどうかを設定します。選択肢はEnabledとDisabledです。

Typematic Rate (Chars/Sec)

キーボードのリピート入力処理を1秒間に何文字を行うかを設定します。選択肢は6、8、10、12、15、20、24、30です。

Typematic Delay (Msec)

何秒間1つのキーを押し続けた場合にリピート入力処理が実行されるかを設定します。選択肢は250、500、750、1000です。

Security Option

ここではシステム及びBIOS設定からユーザーのアクセスを制限します。

System 正しいパスワードが入力されないと、システムは起動せず、BIOS設定画面にも入れません。
Setup(デフォルト) 正しいパスワードが入力されないと、システムは起動しますが、BIOS設定画面には入れません。

OS Selection for DRAM > 64MB

64MB以上の環境でOS/2(R)を使用できるようにします。設定は、Non-OS/2(デフォルト)とOS2(R)です。OS/2(R)を使用し64MB以上のメモリを使用している場合はOS/2に設定してください。

HDD S.M.A.R.T Capability

ここではHDDのS.M.A.R.T(Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology)機能を有効/無効に設定します。デフォルトは無効です。

Report No FDD For Win 95

Windows95 ロゴ取得のための互換性(SCT: System Compatibility Test)テストで使用します。選択肢はYes、Noです。

Advanced Chipset Features

Advanced Chipset Features Setup ではチップセットレジスタの値を変更します。これらのレジスタはコンピュータのシステムオプションのほとんどを制御します。

メインメニューで「Advanced Chipset Features」を選択すると次の画面が出ます。

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
Advanced Chipset Features

RDRAM Bus Frequency	Auto	Item Help
DRAM Data Integrity Mode	Non-ECC	
System BIOS Cacheable	Disabled	
Video BIOS Cacheable	Disabled	
Delayed Transaction	Enabled	
AGP Aperture Size (MB)	64	
		Menu Level >

↑↓→← Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults

注意: チップセットに関して専門的知識がない場合は、設定を変更しないでください。

RDRAM Bus Frequency

起動時にRDRAMバス周波数を表示します。選択肢はAuto、400MHz、300MHzです。

DRAM Data Integrity Mode

インストールされたRDRAMの種類によってParityまたはECC (Error-Checking and Correcting)を選択できます。

System BIOS Cacheable

有効にするとシステムのBIOS ROM領域F000h-FFFFhがキャッシング可能になり、システムのパフォーマンスが上がります。しかし、他のプログラムが、このメモリ領域に書き込みをしようとする、システムエラーが起こる可能性があります。

Video BIOS Cacheable

有効にするとシステムのBIOS ROM領域C0000h-F7FFFhがキャッシング可能になり、ビデオのパフォーマンスが上がります。しかし、他のプログラムが、このメモリ領域に書き込みをしようとする、システムエラーが起こる可能性があります。

Delayed Transaction

チップセットには、遅延処理サイクルをサポートするために、32-bit書き込みバッファが埋め込まれています。PCI 2.1の仕様に準拠するためには、有効に設定してください。

AGP Aperture Size (MB)

AGP(Accelerated Graphics Port)アパチャーの大きさを選択します。アパチャーとはグラフィックメモリ専用割り当てられる、PCIメモリのアドレス領域です。このアパチャー領域にヒットしたホストサイクルは、変換されずにAGPに転送されます。選択肢は4MB、8MB、16MB、32MB、64MB、128MB、256MBです。

Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
Integrated Peripherals

OnChip Primary PCI IDE	Enabled	Item Help
OnChip Secondary PCI IDE	Enabled	
IDE Primary Master PIO	Auto	Menu Level >
IDE Primary Slave PIO	Auto	
IDE Secondary Master PIO	Auto	
IDE Secondary Slave PIO	Auto	
IDE Primary Master UDMA	Auto	
IDE Primary Slave UDMA	Auto	
IDE Secondary Master UDMA	Auto	
IDE Secondary Slave UDMA	Auto	
USB Controller	Enabled	
USB Keyboard Support	Disabled	
Init Display First	AGP	
AC97 Audio	Auto	
AC97 Modem	Auto	
IDE HDD Block Mode	Enabled	
POWER ON Function	BUTTON ONLY	
KB Power ON Password	Enter	
Hot Key Power ON	Ctrl-F1	
Onboard FDC Controller	Enabled	
Onboard Serial Port 1	3F8/IRQ4	
Onboard Serial Port 2	2F8/IRQ3	
↑ ↓ → ← Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults		

UART Mode Select	Normal	
RxD, TxD Active	Hi, Lo	
IR Transmission Delay	Enabled	
UR2 Duplex Mode	Half	
Use IR Pins	IR-Rx2Tx2	
Onboard Parallel Port	378/IRQ7	
Parallel Port Mode	SPP	
EPP Mode Select	EPP 1.7	
ECP Mode Use DMA	3	
PWRON After PWR-Fail	Off	
Game Port Address	201	
Midi Port Address	330	
Midi Port IRQ	10	
Power Status Led	Blinking	

OnChip Primary/Secondary PCI IDE

本製品には2つのIDEチャンネルがオンボードされています。それぞれ有効/無効に設定できます。

IDE Primary/Secondary Master/Slave PIO

ここではオンボードされているIDEポートのPIO(Programmed Input/Output)モード(0-4)の設定をします。ATAのスペックでは、転送速度はMode 4 > Mode 3 > Mode 2 > Mode 1 > Mode 0です。もしHDDがモード3で動作するとしたら、それ以下のモード(モード0-2)には設定できませんが、それ以上のモード(モード4)には設定できません。Autoに設定するとシステムが各デバイスに最適な設定を自動的に判別します。選択肢はAuto、Mode 0、Mode 1、Mode 2、Mode 3、Mode 4です。

IDE Primary/Secondary Master/Slave UDMA

Ultra DMA/33は使用するIDEハードドライブおよびOSがDMAをサポートしている場合のみ有効な機能です。もしHDD、OSともにUltra DMA/33、Ultra DMA/66、Ultra DMA/100をサポートしている場合は、Autoを選択してBIOSのサポートを有効にしてください。選択肢はAuto、Disabledです。

USB Controller

USB周辺機器を使用する場合は有効に設定してください。

USB Keyboard Support

有効に設定すると、USBキーボードをサポートしないOSであっても、BIOSがUSBキーボードのドライバ用意しPS/2キーボードと同じように扱うことが可能になります。

Init Display First

PCIとAGP両方インストールされている場合、どちらを先に出力するかを設定します。選択肢はPCI Slot、AGPです。

AC97 Audio

850 チップセットの AC97 オーディオ機能を有効 / 無効に設定します。

AC97 Modem

AC97 モデムを有効 / 無効に設定します。

IDE HDD Block Mode

ブロックモードとはブロック転送、または複数コマンド、または複数セクタ読み書きとも呼ばれています。使用する IDE ハードドライブがブロックモードをサポートする場合は(現在流通している HDD の多くはサポートしています)、有効に設定してください。選択肢は Enabled と Disabled です。

Power On Function

どのようにして電源を入れるかを設定します。選択肢は Button Only、Mouse Left、Mouse Right、Password、Hotkey、keyboard 98 です。

KB Power ON Password

通常はこの項目は選択できないようになっています。この機能を選択するには「Power On Function」で「Password」設定を選択してください。これで KB Power On のパスワードが設定できます。

Hot Key Power ON

Power On Function が Hot KEY に設定されている場合、システムを起動するためのキーの組み合わせを選択することができます。選択肢は Ctrl-F1 から Ctrl-F12 までです。

Onboard FDC Controller

このシステムにはオンボードスーパー I/O チップが搭載されており、360K/720K/1.2M/1.44M/2.8M の FDD2 台をサポートする FDD コントローラがあります。FDD を使用する場合は有効に、使用しない場合は無効に設定してください。選択肢は Enabled と Disabled です。

Onboard Serial Port 1/Port 2

各シリアルポートの I/O ポートアドレスと IRQ 番号を指定します。選択肢は 3F8/IRQ4、2E8/IRQ3、3E8/IRQ4、2F8/IRQ3、Disabled、Auto です。

UART Mode Select

オンボード I/O チップの赤外線 (IR) 機能の設定をします。

RxD, TxD Active

RxD, TxD のアクティブを設定します。選択肢は「Hi, Lo」(デフォルト)、「Hi, Hi」, 「Lo, Hi」, 「Lo, Lo」です。

IR Transmission Delay

赤外線伝達遅延機能 (IR transmission delay feature) を有効 / 無効に設定します。選択肢は Enabled (デフォルト) と Disabled です。

UR2 Duplex Mode

IR (赤外線) コネクタに接続された IR (赤外線) デバイスの duplex 値を設定します。Full-Duplex モードは同時に両方向の伝達を可能にします。Half-Duplex モードは同時には一方方向のみの伝達しか許可しません。選択肢は Half (デフォルト) と Full です。

Use IR Pins

赤外線周辺装置の説明書を参照の上正しい TxD、RxD 信号を選択してください。選択肢は「IR-Rx2Tx2」, 「IRxD2, TxD2」です。

Onboard Parallel Port

このシステムにはオンボードスーパー I/O チップが搭載されており、SPP、ECP、EPP 機能をサポートしています。選択肢は 378/IRQ7、278/IRQ5、3BC/IRQ7、Disabled です。デフォルトは 378/IRQ7 です。

Parallel Port Mode

オンボードパラレルポートを標準パラレルポートとしてのみ使用する場合は、「SPP」を選択してください。「ECP」を選択すると、ECPモードでのみ動作します。「ECP+EPP」を選択することによって、ECPとEPPを同時にサポートできます。ECPモードはDMAチャンネルを使用しなければならないので、ECP機能を選択すると「ECP Mode Use DMA」というメッセージが出ます。ここで、DMAチャンネル3か1を選択できます。オンボードパラレルポートはEPP仕様互換なので、EPP機能を選択すると「EPP Mode Select」というメッセージが出ます。ここで、EPP 1.7仕様かEPP 1.9仕様かを選択できます。

- SPP: Standard Parallel Port
- EPP: Enhanced Parallel Port
- ECP: Extended Capability Port

PWRON After PWR-FAIL

電源に何か問題が起きた場合、システムが再起動するかどうかを設定します。

Game Port Address/Midi Port Address

使用するゲームポート/MIDIポートのアドレスを選択します。

Midi Port IRQ

オンボードゲーム/MIDIポートを無効にするかアドレスを設定します。

Power Status Led

パワーLEDの状態を設定します。選択肢はBlink、Dual、Singleです。Blinkの時はシステムがサスペンドモードに入るとパワーLEDが点滅します。Dualの時は、パワーLEDの色が変化します。Singleの時は、パワーLEDは常に点灯しています。

Power Management Setup

Power Management Setupでは、システムの使用状況に応じた省電力設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
Power Management Setup

ACPI Suspend Type	S1(POS)	Item Help
Power Management	User Define	
Video Off Method	DPMS	Menu Level >
Video Off In Suspend	Yes	
Suspend Type	Stop Grant	
Modem Use IRQ	3	
Suspend Mode	Disabled	
HDD Power Down	Disabled	
Soft-Off by PWR-BTTN	Instant-Off	
Wake-Up by PCI card	Enabled	
Power On by Ring	Enabled	
Wake Up On LAN	Enabled	
USB KB/MS Wake-Up from S3	Disabled	
CPU THRM-Throttling	50.0%	
Resume By Alarm	Disabled	
Date(of Month) Alarm	0	
Date(hh:mm:ss)	0 0 0	
Reload Global Timer Events		
Primary IDE 0	Disabled	
Primary IDE 1	Disabled	
Secondary IDE 0	Disabled	
Secondary IDE 1	Disabled	
FDD, COM, LPT Port	Disabled	
PCI PIRQ[A-D]#	Disabled	
↑↓ → ← Move Enter:Select +/-/PU/PD=Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults		

ACPI Suspend Type

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)機能のスタンバイモードを設定します。

S1 (POS)

S1はシステムが短時間でウェークアップするスリープモードです。この状態では、スリープモードに入る前のすべての情報(CPUまたはチップセット)が保存されます。

S3 (STR)

S3はシステムが短時間でウェークアップするスリープモードです。この状態ではスリープモードに入る前のシステムメモリ以外のすべてのシステム情報(CPU、チップセット、L2キャッシュ)が失われますがメモリにある情報は保存されます。

Power Management

以下のモードに関する省電力機能の種類を設定します。

1. サスペンドモード
2. HDD パワーダウン

省電力には以下の3つの選択肢があります。その内2つは設定値が固定されています。

Min. Power Saving	最小限の省電力設定。サスペンドモード=1時間、HDD パワーダウン=15分
Max. Power Saving	最大限の省電力設定。サスペンドモード=1分、HDD パワーダウン=1分
User Defined	各モードを手動で設定できます。有効に設定されている場合は、各モードは1分から1時間の設定幅があります。ただし、HDD パワーダウンは1分から15分の間で設定できます。(デフォルト)

Video Off Method

モニタの画面を切る方法を設定します。

V/H SYNC+Blank	画面を切り、かつVGAからディスプレイへの垂直同期・水平同期信号を切ります。
Blank Screen	映像信号が来ていないとき、画面を切ります。DPMSモード(デフォルト)
Video Off Method	初期ディスプレイ電源管理信号

Video Off In Suspend

サスペンドモードでモニタを切るかどうかを設定します。選択肢は、YesかNoです。

Suspend Type

サスペンドモードの種類を設定します。選択肢はPWRON SuspendかStop Grantです。

Modem Use IRQ

モデムを使用する場合に、どのIRQを割り当てるかを設定します。選択肢は3、4、5、7、9、10、11、NAです。

Suspend Mode

サスペンドモードに入るまでの連続アイドル時間を設定します。時間が来るとCPU以外のすべてのデバイスの動作が停止します。選択肢は1/2/4/8/12/20/30/40 Min、1 Hour、Disabledです。

HDD Power Down

HDD が省電力モードに入るまでの連続アイドル時間を設定します。時間が来ると、BIOS が HDD のモーターを止めます。選択肢は1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14/15MinかDisabledです。

Soft-Off by PWR-BTTN

Delay 4 secの時は、スイッチを一回押すとサスペンドモードに入ります。4秒以上を押し続けると電源が切れます。Instant-offの時は、スイッチを一回押すと電源が切れます。

Wake-Up by PCI Card

PCI拡張カードからシステムのウェイクアップを可能にします。選択肢は有効/無効です。

Power On by Ring

無効の時には、システムはモデムからのコールを無視します。有効の時には、モデムからのコールがあると、システムが起動します。

Wake-Up on LAN

LANを通じてウェイクアップ信号が送られたときシステムを起動するかどうかを設定します。この機能を使用するためには、お使いのLANカードがこの機能をサポートしている必要があります。同様にマザーボード上のJWOL1に信号ケーブルを接続する必要があります。

Enabled	Wake up on LAN サポート (デフォルト)
Disabled	Wake up on LAN サポートなし

USB KB Wake-Up From S3

有効に設定すると、STRの状態からUSBキーボードを使ってウェイクアップできるようになります。

CPU THRM-Throttling

システムがサスペンドモードに入ったときにCPUに供給されるクロックを通常のクロックに対する比率で設定します。選択肢は12.5%、25.0%、37.5%、50.0%、62.5%、75.0%、87.5%です。

Resume by Alarm

この機能はコンピュータを起動させる日時を設定します。無効の時はこの機能を使用できません。有効の時、アラームの日時を選択してください。

- Date(of month) Alarm システムが起動する月を選択してください。毎月起動させる場合は、0 に設定してください。
- Time(hh:mm:ss) Alarm システムが起動する時、分、秒を選択してください。

注意: 設定を変更した場合、機能を正常に動作させるために、システムを一度OSに入るまで起動させて必要があります。

<Reload Global Timer Events>

省電力モードに移行するアイドル時間のタイマーをリロードするイベントを設定します。Enableの時に割り込みイベントがあると、システムはサスペンドから復帰します。Disableの時にシステムはその割り込みイベントを監視しません。

- Primary IDE 0
- Primary IDE 1
- Secondary IDE 0
- Secondary IDE 1
- FDD, COM, LPT Port
- PCI PIRQ[A-D] #

PnP/PCI Configurations

ここではPCIバスシステムの設定を行います。PCI(Personal Computer Interconnect)バスシステムはシステムのI/Oデバイスを制御する上で必要不可欠なシステムです。以下、このセクションで行う設定は、技術的な知識と経験があるユーザーが行うべきものです。

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
PnP/PCI Configurations

Reset Configuration Data	Disabled	Item Help
Resources Controlled By IRQ Resources	Auto (ESCD) Press Enter	
PCI/VGA Palette Snoop	Disabled	Menu Level >
↑↓ → ← Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults		

Reset Configuration Data

通常、この項目は無効に設定してください。システムに何か新しい拡張カードなどをインストールしてその結果システムの再設定により競合が生じOSが起動できない場合には、有効に設定してESCD(Extended System Configuration Data)をリセットしてください。選択肢は「Enabled」と「Disabled」です。

Resource Controlled By

BIOSの自動リソース検出機能の設定です。Autoにすると、BIOSはシステムのリソースを検知して、各デバイスに関連するIRQとDMAを自動的に割り当てます。Manual(デフォルト)にすると、ユーザーが自分で任意のIRQを割り当てることができます。IRQ、DMA、I/Oポートに競合がないことを確認してください。

IRQ Resources

Resource Controlled ByがManualに設定されている場合は、各デバイスに手動で割り当てるIRQを設定する必要があります。

PCI/VGA Palette Snoop

ここは無効に設定してください。選択肢は「Enabled」と「Disabled」です。

PC Health Status

ここではCPU温度、CPUファン回転速度、CPU Vcore電圧などのハードウェア状態を監視します。この項目はハードウェアモニタ機能がマザーボードにオンボードされている場合のみ使用可能です。

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
PC Health Status

Chassis Intrusion Detect	Disabled	Item Help
CPU Warning Temperature	Disabled	
Current System Temp.	39°C/102°F	Menu Level >
Current CPU Temperature	66°C/150°F	
Current CPU FAN Speed	5532RPM	
Current SYS FAN Speed	0RPM	
Current PSFAN1 Speed	0RPM	
Vcore	1.65V	
+1.80V	1.88V	
Vio	3.24V	
+5V	4.89V	
+12V	11.79V	
-12V	-12.19V	
-5V	-4.53V	
VBAT(V)	3.10V	
5VSB(V)	5.37V	
Shutdown Temperature	Disabled	

↑↓→← Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults

Chassis Intrusion Detect

ケースカバーの開閉を検出するかの設定です。Enable、Reset、Disableの選択肢があります。Enableに設定している間にケースを開けてしまった場合、BIOSはケース開放の警告を記録します。この警告をクリアするためにResetを選択します。一度メッセージをクリアすると、設定はEnableに戻ります。

CPU Warning Temperature

CPUの標準的な上限温度を設定します。CPU温度がこの上限温度に到達するとシステムは警告を出してCPUの過熱を防ぐことができます。

Current System Temp./Current CPU Temperature/Current
CPU FAN Speed/SYS FAN Speed/PSFAN1 Speed/Vcore/
+1.80V/Vio/+5V/+12V/-12V/-5V/VBAT(V)/5VSB(V)

CPU/FAN/System 電圧およびファン回転速度を表示します。

Shutdown Temperature

シャットダウン温度レベルを設定します。設定温度以上になっ
たとき自動的にシステムをシャットダウンします。

Frequency/Voltage Control

CMOS Setup Utility - Copyright(C) 1984-2001 Award Software
Frequency/Voltage Control

CPU Clock Ratio	x8	Item Help
CPU Vcore Select	Default	
Auto Detect PCI CLK	Enabled	
Speed Spectrum	+/-0.25%	
CPU Clock	100	
		Menu Level >
↑↓ → ← Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-safe defaults F7:Optimized Defaults		

CPU Clock Ratio

CPUクロック倍率を設定します。8倍から23倍まで設定することが
できます。

注意: Pentium(R) 4プロセッサの基本的に倍率可変ではありません。

CPU Vcore Select

ここではCPU Vcore 電圧を設定することができます。選択肢は
Default, +25mv, +50mv, +75mv, +100mv です。

Auto Detect PCI Clk

ここではインストールされたPCIカードのクロック周波数を自
動的に認識する機能を有効/無効に設定することができます。選択肢
はEnabled(デフォルト)とDisabledです。

Spread Spectrum

CPUの周波数とクロックジェネレータのスペクトラム拡散を有効か無効に設定します。スペクトラム拡散とは、周波数帯域幅を拡散(広帯域化)することによって、ノイズ耐性(通信路の雑音に対する耐久性)や耐干渉性(他チャンネルの信号などによって信号が歪むことに対する耐性)などを向上させる設定です。選択肢はDisabled、+/-0.25% (デフォルト)、-0.5%、+/-0.5%、+/-0.38%です。

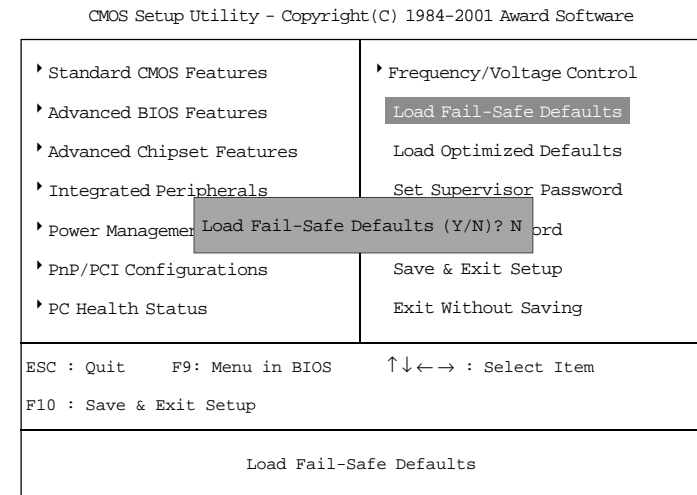
CPU Clock

ここではCPUホストバス(FSB)のクロック周波数を設定することができます。CPUを100MHzから200MHzの間で調整することができます。

Load Fail-Safe/Optimized Defaults

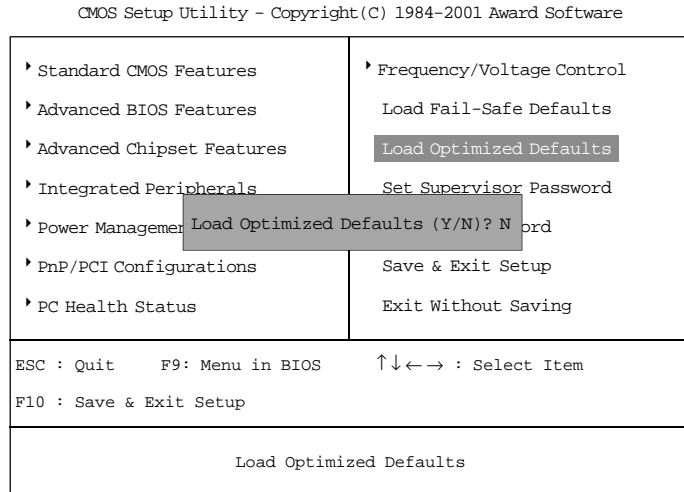
メインメニューの2つのオプションはBIOS設定をデフォルトのFail-Safe(最も安全な状態)かOptimized(最適化された状態)の設定値に戻すことができます。Optimizedデフォルトはマザーボードメーカーによって設定されたマザーボードにとっての最適な性能を引き出すことができるデフォルト値です。Fail-SafeデフォルトはBIOSベンダーによって設定された安定したシステム性能のためのデフォルト値です。

「Load Fail-Safe Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。



Yを押すと最も安定した最も性能の低いBIOSのデフォルト値が読み込まれます。

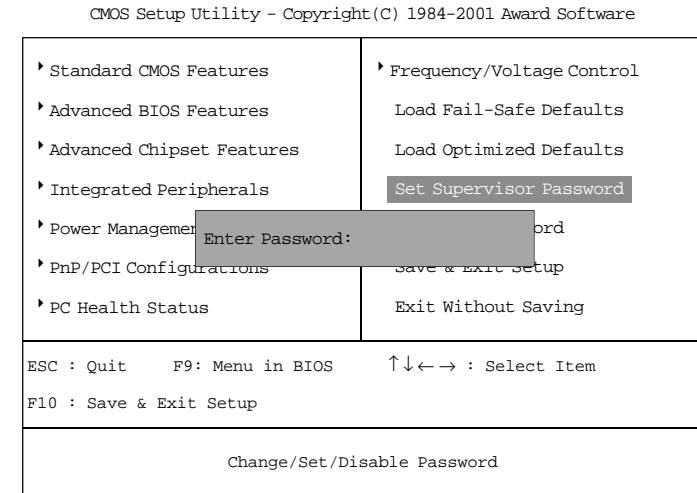
「Load Optimized Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。



Yを押すと最適なシステム性能を引き出すことのできるデフォルト値が読み込まれます。

Set Supervisor/User Password

この機能を選択すると次のようなメッセージが画面に表示されます。



最大8文字までのパスワードを入力し、<Enter>を押してください。新しくタイプしてパスワードによって、CMOSに保存されていた古いパスワードは消去されます。パスワードを入力すると、パスワードを確認するメッセージが表示されるので、パスワードをもう一度入力してください。<Esc>を押してパスワードを入力せずにキャンセルすることもできます。

パスワードを入力せずに<Enter>を押すことで、パスワードを無効にすることもできます。以下のメッセージが出て、パスワードが無効になったことを確認します。パスワードが無効になると、システムを起動した後、自由にセットアップメニューに入ることができます。

パスワードが有効な時は、ユーザーがセットアップメニューに入ろうとする度に、パスワードの入力が必要になります。これにより、システム使用許可のないユーザーがシステム設定を変更できないようになります。

第三章

さらに、システムが起動する度に、パスワードを入力が必要になるように設定することもできます。これにより、システム使用許可のないユーザーがシステムを勝手に起動することができないようになります。

どの時点でパスワードが必要になるかをBIOS Features Setupメニューの中のSecurity optionで設定することができます。Systemに設定すると、システム起動時、およびセットアップメニューに入る時両方でパスワードが必要になります。Setupに設定すると、セットアップメニューに入るときだけパスワードが必要になります。

Supervisor Password と User Password について

Supervisor password: セットアップメニューに入って設定を変更することができます。

User password: セットアップメニューに入ることができますが設定の変更はできません。

USB PC to PC ネットワーク 機能

A

USB PC to PCは最も簡単にネットワークコネクションを実現させることができる最良な方法です。複数のPCをUSB PC to PCポートにつなぐだけで、ネットワークアダプタを一切使用せずローカルエリアネットワークを構築することができます。このイーサネットエミュレーション環境のことを我々は『USB PC to PC』と呼びます。USB PC to PCはTCP/IP、NetBEUI、IPXプロトコルをサポートします。この機能によってPC間でファイルやプリンタなどのリソースの共有が可能になります。さらに、USB PC to PCを使って既存のホームまたはオフィスLANに接続してイントラネットやインターネットを利用することができます。

この章では以下のトピックについて説明します。

GeneLink(tm) LAN ドライバインストール手順	A-2
USB PC to PC ネットワーク機能使用方法	A-4

GeneLink(tm) LAN ドライバインストール手順

この機能を使用する前に、GeneLink(tm) LAN ドライバを USB PC to PC に接続されたすべての PC にインストールする必要があります。

Step 1. Install driver

1. ドライバ CD を挿入し「USB PC to PC」ボタンをクリックします。
2. Welcome ダイアログボックスが出るので、Next > ボタンをクリックします。
3. 保存先のフォルダを選択して Next > ボタンをクリックします。
4. インストールしたいコンポーネントを選択して Next > ボタンをクリックします。(GeneLink(tm) LAN Driver は PC を USB PC to PC ポートに接続するだけなので、リソースを共有するためのものです。一方 GeneLink(tm) Software Router は既存のホーム / オフィス LAN に PC を接続してネットワークリソースやインターネットを共有することができます。)
5. セットアッププログラムは必要なコンポーネントを自動的にインストールします。
6. セットアップが終了すると「Yes, I want to restart my computer now」を選択して「Finish」をクリックします。

インストールが終了すると、セットアッププログラムが GeneLink(tm) ネットワークドライバがインストールされ GeneLink(tm) デバイスに TCP/IP、NetBEUI、IPX プロトコルがバインドされます。

Step 2. PC を USB PC to PC ポートに接続します。

Step 3. ネットワークログイン

コンピュータを再起動させるとユーザ名とパスワードの入力画面が出ます。適切なユーザ名とパスワードを入力してください。

Step 4. リソースの共有とインターネット接続

ファイル、フォルダ、ドライブ、プリンタなどは、手動で共有設定すると他のコンピュータからアクセスできるようになります。インターネットにアクセスするには、すでにインターネットに接続されているコンピュータに GeneLink(tm) ソフトウェアルータをインストールする必要があります。また、GeneLink(tm) USB ポートを使ってインターネットにアクセスするクライアントコンピュータには GeneLink(tm) LAN ドライバをインストールする必要があります。

注意:

1. GeneLink(tm) LAN を既存のホーム / オフィス LAN に接続するには、同じプロトコル (TCP/IP、NetBEUI、IPX) を使用する必要があります。
2. [IPX/SPX] と [Client for Netware Networks] を GeneLink(tm) ドライバをインストールする前に既に設定している場合は、GeneLink(tm) ドライバと一緒にソフトウェアルータもインストールした方が良いでしょう。

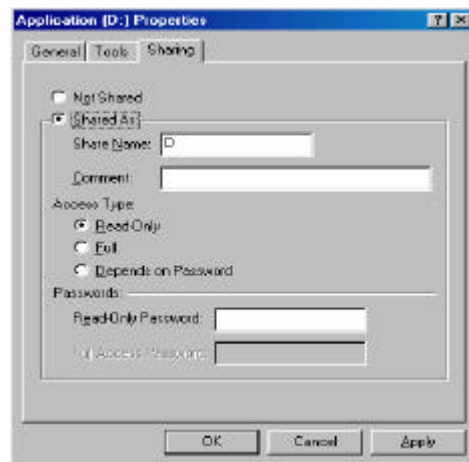
USB PC to PC ネットワーク機能使用方法

ファイル、フォルダ、ドライブ、プリンタの共有方法

- 共有したいファイル、フォルダ、ドライブ、プリンタを選択します。
- 右クリックするとポップアップメニューが表示されます。



- 「共有」を選択すると、別のポップアップメニューが表示されます。



- 「共有する」を選択します。
- 共有名に分かりやすい名前を入力します。
- 「アクセスの種類」を選択します。「パスワードで区別」を選択すると、パスワードを入力しなければなりません。
- 「OK」ボタンをクリックします。

共有されたかを確認する方法

アイコンに手のマークが表示されていれば共有されていることを表します。この場合は、USB PC to PCを使用してそのリソースにアクセスすることができます。もし手のマークが表示されていない場合は、前の**ファイル、フォルダ、ドライブ、プリンタの共有方法**に戻ってやり直す必要があります。

既存のホーム / オフィス LAN に接続する方法

USB PC to PCを使用して既存のホーム / オフィス LAN にコンピュータを接続したい場合は、GeneLink(tm) LANドライバの他にGeneLink(tm) ソフトウェアルータをインストールする必要があります。GeneLink(tm) ソフトウェアルータはUSB PC to PC とホーム / オフィス LAN の間のすべてのネットワークパケットを操作します。従って、既存のLANとUSB PC to PC のネットワークの両方につながっている PC に GeneLink(tm) ソフトウェアルータをインストールする必要があります。USB PC to PC のネットワークにのみ参加しているコンピュータにはGeneLink(tm) LAN ドライバをインストールするだけで十分です。以下、GeneLink(tm) ソフトウェアルータのインストール方法について解説します。

注意: GeneLink(tm) LAN を既存のホーム / オフィス LAN に接続したい場合は、両方の LAN に同じプロトコルを使用して下さい。たとえば、ホーム / オフィス LAN が TCP/IP プロトコルを使用している場合は、GeneLink(tm) LAN にも TCP/IP を使用してください。そうしないと、両方の LAN でコミュニケーションが取れなくなります。セットアッププログラムは GeneLink(tm) LAN にはデフォルトで TCP/IP、NetBEUI、IPX プロトコルをインストールします。既存のホーム / オフィスが他のプロトコルを使用している場合は、GeneLink(tm) LAN にも同じプロトコルをインストールしてください。

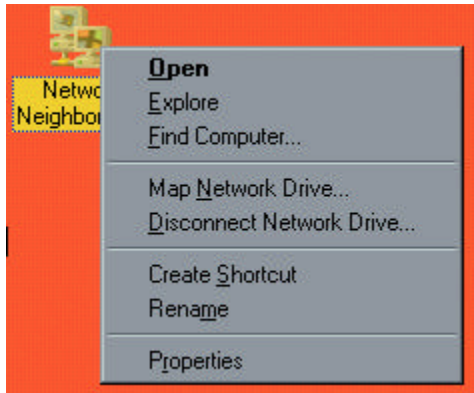
USB PC to PC を使ってインターネットにアクセス

USB PC to PCを使用してインターネットにアクセスした場合は、以下の点に気をつけてください。

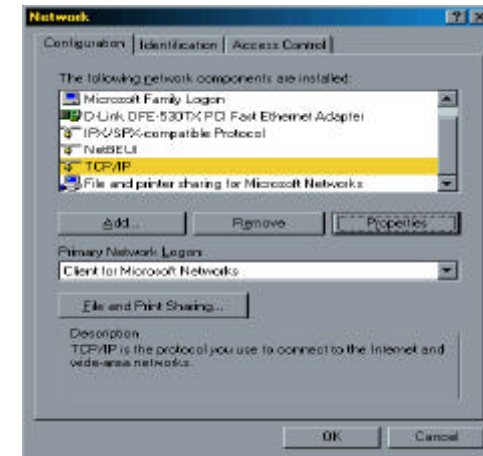
- a. どのPCにGeneLink(tm)ソフトウェアルータをインストールするかを決めなければなりません。
- b. GeneLink(tm)ソフトウェアルータをインストールしたPCは既にインターネットに接続されている必要があります。
- c. USB ケーブルで接続されているクライアントコンピュータには**GeneLink(tm)**ドライバがインストールされている必要があります。

次に、ネットワーク設定について説明します。設定の詳細が分からない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

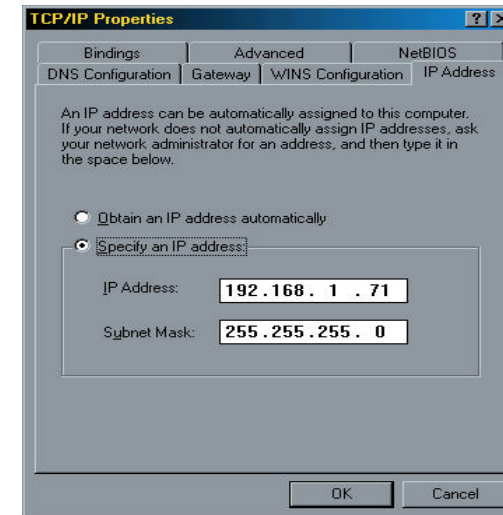
- a. 既存のホーム/オフィスネットワークがDHCPを使ってクライアントにIPアドレスを割り当てていない場合は、
 - マウスカーソルをネットワークコンピュータのアイコンに合わせ右クリックします。するとポップアップメニューが表示されます。



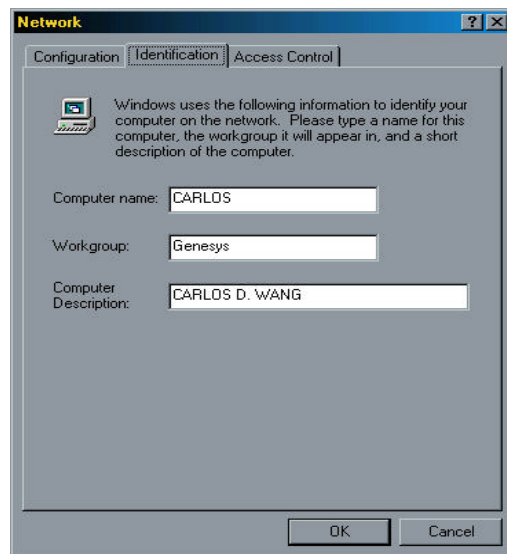
- 「プロパティ」をクリックすると、別のメニューが表示されます。



- 設定タグの中からTCP/IPを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。TCP/IPのプロパティ画面が表示されます。



- ここで IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS 設定を記入します。もし適切な値が分からない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 「OK」ボタンをクリックすると前のネットワークの画面に戻ります。識別情報タグをクリックし、コンピュータ名およびワークグループ名を記入します。もし適切な値が分からない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 「OK」をクリックしてネットワークの設定を終了します。コンピュータを再起動するとインターネットに接続できます。



- b. 既存のホーム/オフィスネットワークがDHCPを使って各クライアントにIPアドレスを割り当てている場合は、ネットワークサーバが自動的に適切な情報に設定します。従って、上記の手順を踏む必要がありません。

すでにネットワークアダプタがインストールされているシステムをお持ちのお客様への注意事項

[IPX/SPX]と[Client for Netware Networks]をGeneLink(tm)ドライバをインストールする前に設定している場合は、GeneLink(tm)ドライバをインストールする際に**ソフトウェアルータ**も一緒にインストールすることをお勧めします。**ソフトウェアルータ**をインストールしないと、OSが2つのIPX/SPX設定がシステムに同時に存在することを許可しません。これが原因で、GeneLink(tm)ドライバが元のIPX/SPX設定を書き換えてしまい、元のネットワーク設定が正常に動作しなくなります。

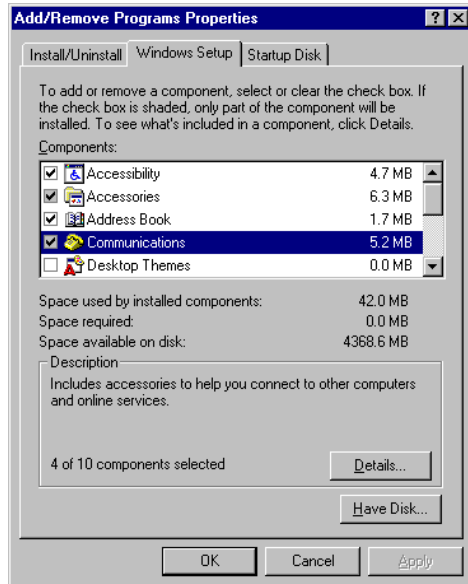
USB PC to PC とモデム内蔵 PC でインターネットに接続する方法

既存のオフィス/ホームLANがなく、また自分のコンピュータにモデムがなくとも別のモデム内蔵 PC と USB PC to PC を使ってインターネットに接続することができます。

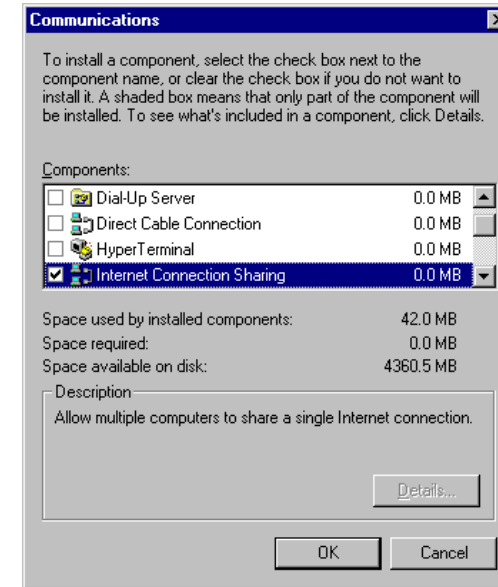


別のモデム内蔵 PC を通してインターネットに接続するためには「Internet Connection Sharing」を USB PC to PC ケーブルに接続されたすべてのコンピュータにインストールする必要があります。以下、手順です。

- a. 「コントロールパネル」を開きます。
- b. 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックすると「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。
- c. 「Windowsファイル」を選択し「通信」をダブルクリックします。「通信」のウィンドウが表示されます。



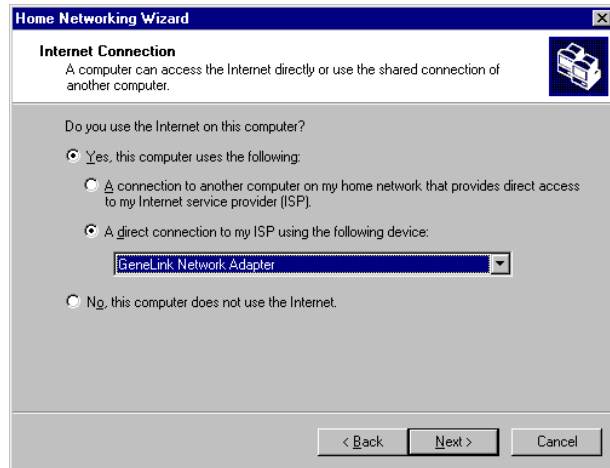
- d. 「Internet Connection Sharing」を選択して「OK」をクリックしてください。



- e. 「Home Networking Wizard」が開始されます。「Next」をクリックしてください。



- f. 「A direct connection to my ISP using the following device」をクリックしてプルダウンメニューから「GeneLink Network Adapter」を選択してください。



注意: モデム内蔵コンピュータの場合、「GeneLink Network Adapter」の代わりに「My Connection」を選択する必要があります。「My Connection」のインストール終了後、上の画面に戻ったら「GeneLink Network Adapter」を選択してください。

- g. 「Next」をクリックして続けてください。
 h. 「Finish」をクリックしてください。



- i. コンピュータを再起動してください。

注意: Windows(R) 98SEでは他のコンピュータの共有接続を通してインターネットにアクセスすることができますが、リモートモデムを制御することはできません。しかしWindows(R) MEではOSに搭載されたダイアリングプログラムを使用して他のコンピュータのリモートモデムをダイヤルすることができます。